

ICカード・ラベル 発行システム ユーザーガイド

- Microsoft、Windows、および Excel は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- DENSO は、株式会社デンソーの登録商標または商標です。
- MIFARE は、NXP B.V. 社の登録商標です。
- QR コードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。
- その他の社名、または商品名等は各社の登録商標または商標です。

Microsoft Corporation の許可を得て画面写真を使用しています。

コンピューターウイルスや不正侵入などによって発生した障害については、弊社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

- このマニュアルの編集、変更、または無断で転載はしないでください。
- このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- このマニュアルに記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。

本書は富士ゼロックスブランドの商品を含みます。富士ゼロックスブランドの商品は、米国ゼロックス社からライセンスを受けている商品です。商品提供者は富士フィルムビジネスイノベーション株式会社です。Xerox、Xerox ロゴ、および Fuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。FUJIFILM、および FUJIFILM ロゴは、富士フィルム株式会社の登録商標または商標です。DocuWorks は、富士フィルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標または商標です。

株式会社デンソーウェブ社製非接触 IC カードリーダー一体型 2 次元コードスキャナ（以下エンコード装置）のご注意

- エンコード装置は電波法で定められた「誘導式読み書き通信設備」に該当します。エンコード装置には総務省指定 第 CC-14009 号の型式指定を受けたリーダーユニットを内蔵しています。
- エンコード装置は日本国内専用品です。日本国外では使用できません。ただしエンコード装置を内蔵する製品を生産する目的等で日本国外に輸出する必要がある場合は、「外国為替及び外国貿易法」に定める戦略物資に該当しますので、同法に基づく日本国政府の輸出許可が必要です。詳細は販売店にお問合せください。
- ノイズの影響を受けると機器の誤動作を引き起こすことがあります。ノイズの発生する環境では使わないでください。

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

安全上の注意については、エンコード装置に付属している操作ガイドの「安全上のご注意」をご覧ください。

本書の使い方

本機を使用する前に必ずこのマニュアルをお読みください。このマニュアルは、読み終わったあとも必ず保管してください。

本書の構成

本書の構成は、次のとおりです。

◆ 1 IC カード・ラベル発行システムの概要

IC カード・ラベル発行システムでできることや動作環境について説明しています。

◆ 2 セットアップ

プリンターの設定や、ソフトウェアのインストールについて説明しています。

◆ 3 券面作成ソフトウェア

券面作成ソフトウェアの操作手順を説明しています。

◆ 4 定義ファイル作成ツール

定義ファイル作成ツールの操作手順を説明しています。

◆ 5 エンコードソフトウェア

エンコードソフトウェアの操作手順を説明しています。

◆ 6 こんなときには

トラブルが起きたときの対処方法を説明しています。

本書の表記

- 機械のソフトウェアのバージョンによって、本書に記載している画面が、お使いの機械と異なる場合があります。
- お使いの機械の構成によっては、画面に表示されない項目や使用できない機能があります。
- 本文中の「コンピューター」は、パーソナルコンピューターやワークステーションの総称です。
- 本文中では、説明する内容によって、次のマークを使用しています。

注記

- 必ず知っておいていただきたい情報、操作するときに必ず確認していただきたい情報を記載しています。

補足

- 操作の参考になる情報を記載しています。

参照

- 参照先を記載しています。

- 本文中では、次の記号を使用しています。

- | | |
|-------------|--|
| 「 」 | <ul style="list-style-type: none">•本書内にある参照先を表しています。•機能の名称やタッチパネルディスプレイのメッセージ、入力文字列などを表しています。 |
| 『 』 | <ul style="list-style-type: none">•参照するマニュアルを表しています。 |
| [] | <ul style="list-style-type: none">•機械のタッチパネルディスプレイに表示されるボタンやメニューなどの名称を表しています。•コンピューターの画面に表示されるメニュー、ウィンドウ、ダイアログボックスなどの名称と、それらに表示されるボタンやメニューなどの名称を表しています。 |
| < > ボタン | <ul style="list-style-type: none">•機械の操作パネル上のハードウェアボタンを表しています。 |
| < > キー | <ul style="list-style-type: none">•コンピューターのキーボード上のキーを表しています。 |
| > | <ul style="list-style-type: none">•機械の操作パネルで順に項目を選択する手順を、省略して表しています。•コンピューターで順に項目をクリックする手順を、省略して表しています。•参照先を省略して表しています。 |

1 ICカード・ラベル発行システムの概要

1.1 ICカード・ラベル発行システムでできること

ICカード・ラベル発行システムは、オフィス向け複合機、またはプリンターで、複合機の認証に使えるICカードを作成できるシステムです。ICカードの情報と紐付けられた情報をICメモリーに書き込むことで、その情報を使った複合機の認証カード、社員証、および入退室用カードとして使用できるICカードも作成できます。

ICカード・ラベル発行システムは、次の2つのソフトウェアで構成されます。

- 券面作成ソフトウェア
レイアウトファイルとユーザー情報ファイルをもとに券面を作成して印刷するソフトウェアです。
- エンコードソフトウェア
券面に印刷したタグバーコードを読み取り、読み取ったタグバーコードに紐付けられた情報をICメモリーに書き込むソフトウェアです。



補足

- ICカードの作成には、ICメモリーを内蔵した弊社製の専用用紙 (ICカードラベル2つ折り、またはICラベル) を使用します。本書では、これらを総称して「ICカードラベル」と表記します。

券面作成

用紙サイズを指定し、画像や文字をレイアウトした券面を作成できます。

社名やロゴなどすべての券面に共通で印刷される項目や、ユーザー情報ファイルから読み込む各ユーザーの情報 (名前、顔写真など) を配置できます。

作成した券面レイアウトは、プレビューで確認できます。

一度作成した券面レイアウトはファイルに保存でき、繰り返し使用できます。

印刷したICカードを複合機に登録することで、認証用カードとして利用できるようになります。

補足

- ICカードの登録には、複合機に搭載されている「ICカード登録ツール」をご利用ください。

IC メモリーへの情報の書き込み

券面に紐付けられた情報を IC メモリーに書き込むことで、その情報を使った複合機の認証カード、社員証、および入退室用として使用する IC カードを作成できます。

株式会社デンソーウェーブ社製非接触 IC カードリーダー一体型 2次元コードスキャナ QK30-IC（以下、本書では「エンコード装置」と表記します）と連携し、券面に印刷されたタグバーコードを読み取ります。読み取ったバーコードに紐付けられた情報をユーザー情報ファイルから読み込み、IC メモリーに書き込みます。

ジョブ管理

券面作成ソフトウェアで印刷した結果は、エンコードソフトウェアの一覧画面にジョブの一覧として表示されます。この一覧で、ジョブのステータスやバーコードの読み取り日時を確認できます。

また、IC メモリーへのデータの書き込みが失敗したときは、エラージョブとして表示され、エラーステータスを確認できます。

1.2 セットアップする前に

IC カード・ラベル発行システムをセットアップする前に、動作環境を確認してください。

動作環境

本機能は、次の環境で動作します。

- プラットフォーム Microsoft .NET Framework 3.5 SP1
- USB ポート USB2.0 2 ポート以上
バスパワーポートごとに 500 mA 供給可能

Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 については、券面作成・エンコードソフトウェアの CD-ROM にある、driver/dotnet/dotnetfx35.exe を実行してください。
詳細は、マイクロソフトの公式サイトを参照してください。

<http://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=25150>

対応 OS

対応 OS については弊社公式サイトをご覧ください。

エンコード装置

エンコード装置は、株式会社デンソーウェーブ社製の QK30-IC を使用します。

取扱説明書、サポート情報などは、株式会社デンソーウェーブ社の公式サイトを参照してください。

<http://www.denso-wave.com/>

COM ポートの通信設定は、次のとおりです。

項目名	通信設定
ボーレート	115,200
データビット	8 bit
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	なし

1.3 IC カードの IC メモリーについて

IC カード・ラベル発行システムでは、IC カードの IC メモリーに情報を書き込みます。

IC メモリーには、0～15のセクターと、各セクターに対して0～3のブロックが用意されています。メモリーマップは、次のとおりです。

Sector	Block	Block内のバイト情報															
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0	0																
	1	00	00	01	02	03	00	00	01	02	02	00	00	00	00	00	01
	2																
	3																
1	0																
	1																
	2																
	3																
2	0																
	1																
	2																
	3																
15	0																
	1																
	2																
	3																

- IC メモリーへのアクセスは、1 ブロック（16 バイト）単位で行います。
- 認証はセクター単位で行います。1 セクターには、4 ブロック（0～3 ブロック）あります。
- 0 セクターの 0 ブロックには、「カードの固有情報（以下、UID）」が書き込まれています。
- 各セクターのブロック 3 には、「キー A」「キー B」「アクセスフラグ」を格納しています。

補足

- 本システムが対応している IC メモリーは、MIFARE Classic 1K、または MIFARE Classic EV1 1K です。

2 セットアップ

2.1 エンコード装置を設定する

IC カード・ラベル発行システムを使用するための、エンコード装置を設定します。



- Active USB-COM ポートドライバーのインストールが完了するまで、コンピューターにエンコード装置を接続しないでください。
- 以降で説明するすべてのインストールとアンインストール操作には、管理者権限が必要です。

エンコード装置のドライバーをダウンロードする

1. 株式会社デンソーウェーブの公式サイトを開きます。

<http://www.denso-wave.com/>



- 株式会社デンソーウェーブの公式サイトでのデザインや内容は、下記の内容と異なる場合があります。その場合は、下記の内容に準じた操作をしてください。

2. ドライバーのダウンロードページを開きます。

3. 「QK シリーズ」の Active USB-COM ポートドライバーをダウンロードします。



- 「[詳細]」をクリックすると、注意事項を確認できます。

エンコード装置のドライバーをインストールする

エンコード装置のドライバーをインストールする手順を説明します。



- エンコード装置は USB2.0 ポートを 2 つ使用するため、Active USB-COM ポートドライバーを 2 回インストールする必要があります。

1. 「エンコード装置のドライバーをダウンロードする」(P.9) でダウンロードした ZIP ファイルを解凍します。

2. 解凍したフォルダー内の「Install.exe」をダブルクリックします。

インストーラーが起動します。

3. 「[次へ]」をクリックします。

4. USB デバイスを接続していないことを確認し、「[OK]」をクリックします。

インストールが開始されます。

5. 「[完了]」をクリックします。

6. 手順 2～5 を繰り返します。

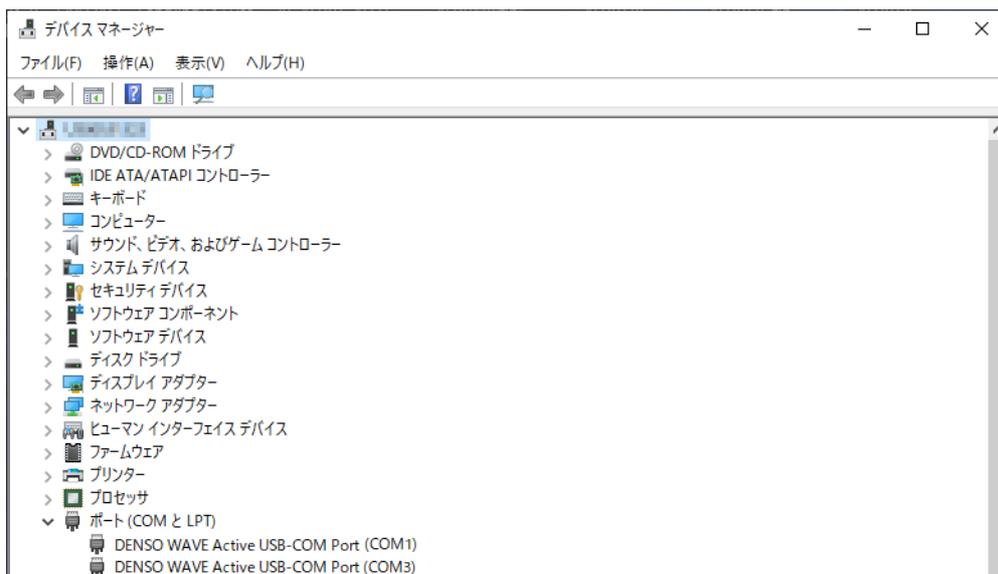
ドライバーがインストールされたことを確認する

ドライバーがインストールされたことを確認します。

1. スタートボタンを右クリックし、表示された「クイックリンク」メニューから「デバイス マネージャー」をクリックします。
2. [ポート (COM と LPT)] に、次の2つのポートがあることを確認します。
 - DENSO WAVE Active USB-COM Port (COM**)
 - DENSO WAVE Active USB-COM Port (COM**)

補足

- ** の番号は環境によって異なります。



3. コンピューターを再起動します。

エンコード装置を接続する

補足

- エンコード装置は、USB2.0 ケーブルごとに、0.5 A の電流を消費します。コンピューター本体の USB2.0 ポートの供給可能電流を確認してから接続してください。
- エンコード装置は、USB2.0 ハブには対応していません。必ずコンピューター本体の USB2.0 ポートに接続してください。

1. エンコード装置の「QR code」と書かれた白い USB コネクタをコンピューターの USB ポートに接続します。
「デバイス ドライバー ソフトウェアが正しくインストールされました。」というメッセージが表示されます。

補足

- ご使用の OS のバージョンによっては、メッセージが表示されない場合があります。

2. 手順 1 で接続した白い USB コネクタを接続したまま、接続していない「IC Card」と書かれた黒い USB コネクタを USB ポートに接続します。
「デバイス ドライバー ソフトウェアが正しくインストールされました。」というメッセージが表示されます。

補足

- ご使用の OS のバージョンによっては、メッセージが表示されない場合があります。

エンコード装置の設置を確認する

1. スタートボタンを右クリックし、表示された「クイックリンク」メニューから「デバイス マネージャー」をクリックします。
 2. [ユニバーサル シリアル パス コントローラー] に、次の2つのポートがあることを確認します。
 - DENSO WAVE Active USB-COM Port (COM**)
 - DENSO WAVE Active USB-COM Port (COM**)
-  **補足**
- ** の番号は環境によって異なります。
3. [ポート (COM と LPT)] にある、次の2つが両方とも [Connected] と表示されていることを確認します。
 - DENSO WAVE Active USB-COM Port (COM**) -Connected
 - DENSO WAVE Active USB-COM Port (COM**) -Connected

エンコード装置で QR コードを読み取る

『設定用 QR コード』の紙に印刷されている QR コードを使って、エンコード装置を設定します。

1. コンピューターに USB ケーブルが 2 本接続されていることを確認します。
2. 読み取り枠内の LED 照明が点灯することを確認します。

 **補足**

- LED 照明が点いたり消えたりしていても問題ありません。エンコード装置は、外部の明るさの変化を検知して、LED 照明が点いたり消えたりします。暗い場所では、明るさの変化がなくなり、LED 照明が点灯しない場合があります。照明のある場所でお使いください。

3. 『設定用 QR コード』の紙に印刷されている QR コードを、エンコード装置の読み取り枠内にかざします。

 **補足**

- スキャン面の中心と QR コードの中心が重なるようにして、エンコード装置のスキャン面枠に水平にかざしてください。QR コードは、スキャン面枠内に入らないと読み取れません。

4. QR コードを読み取ると、「ピッ ピッ ピッ」と音が鳴り、青いランプが点滅します。

これで、設定は完了です。

 **注記**

- 設定が完了しない場合は、QR コードが正しく読み取れていない可能性があります。次の2つを確認したあと、再び QR コードを読み取り枠内にかざしてください。
 - 電源 LED が点灯しているか
 - USB2.0 ケーブル 2 本がコンピューターの USB2.0 ポートに確実に挿入されているか
- それでも設定が完了しない場合は、販売店にご相談ください。

 **補足**

- エンコード装置は、ピント (距離)、傾き、明るさなどが原因で QR コードが読み取れないことがあります。この場合、QR コードを読み取り枠内にかざして、QR コードを上下前後左右に何度か動かしてください。

2.2 バーコードフォントをインストールする

注記

- バーコードフォントは、券面作成・エンコードソフトウェアを使用する、すべてのコンピューターにインストールしてください。

- 1. ICカード・ラベル発行システムのインストール CD-ROM を、コンピューターにセットします。**
インストーラーが自動で起動されます。
起動されない場合は、CD-ROM 内の「RFIDLancher.exe」を実行してください。
- 2. [バーコードフォントインストール] をクリックします。**
バーコードフォントがインストールされます。

2.3 プリンターを登録する

複合機に付属している、メディア（「ソフトウェア / 製品マニュアル」）を準備してください。

注記

- 付属のメディアがない場合は、販売店に連絡してください。
- ICカード・ラベル発行システムを使用する、すべてのコンピューターに対してプリンターを登録してください。
- インストールには、管理者権限が必要です。
- ICカード・ラベル発行システムの対象機種については、弊社の公式サイトを参照してください。
- 次の場合でも、ICカードラベルに合わせた複合機を新規に登録する必要があります。必ず下記の手順を実施してください。
 - 既存の複合機を使用している場合
 - どこでもプリントやサーバーレスプリントの対象複合機を使用する場合

補足

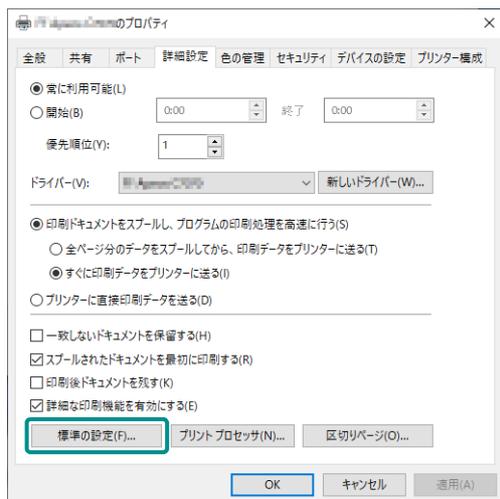
- ICカード・ラベル発行システムでは、弊社製の専用用紙を使用します。この専用用紙は、手差しトレイを使用することを前提としています。

ドライバーをインストールする

1. メディアをCD-ROMドライブにセットします。
2. メディアに格納されているマニュアルを参照し、ドライバーをインストールしてください。

プリンターのプロパティを開く

1. Windows のスタートボタンから、[Windows システムツール] > [コントロールパネル] > [ハードウェアとサウンド] > [デバイスとプリンター]を開きます。
2. インストールしたプリンターを右クリックし、メニューから [プリンターのプロパティ] を選択します。
3. [詳細設定] タブを選択します。
4. [標準の設定] をクリックします。

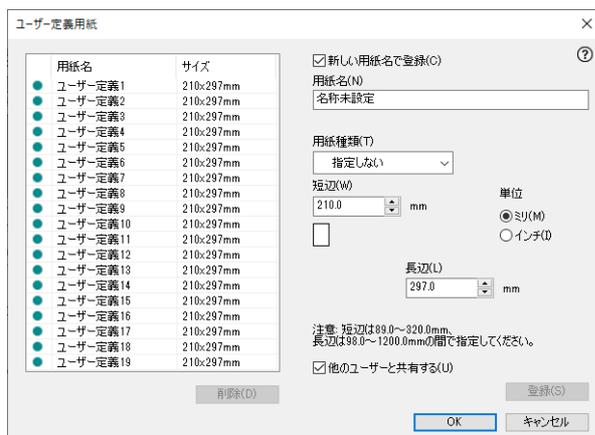


[基本] タブの項目を設定する

1. [基本] タブを選択します。



2. [原稿サイズ] で [ユーザー定義用紙] を選択し、2 連用紙、またはシングル用紙を以下の操作で登録します。



1) [新しい用紙名で登録] にチェックマークを付けます。

2) [用紙名] に、以下のように入力します。
2 連用紙の場合：「IC カードラベル・2 連」
シングル用紙の場合：「IC カードラベル・シングル」

3) [短辺] に、以下を入力します。
2 連用紙の場合：148 mm
シングル用紙の場合：132 mm

4) [長辺] に、以下を入力します。
2 連用紙の場合：264 mm
シングル用紙の場合：148 mm

5) [登録] を選択します。

6) [OK] をクリックします。

3. [原稿サイズ] / [出力用紙サイズ] で手順 2 で登録した 2 連用紙、またはシングル用紙を選択します。



4. [原稿の向き] で次の設定をします。

- 2 連用紙の場合：[よこ原稿] にチェックマークを付けます。
- シングル用紙の場合：[たて原稿] にチェックマークを付けます。

5. [両面] で [しない] を選択します。

[トレイ / 排出] タブの項目を設定する

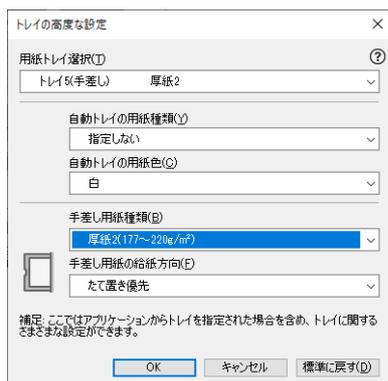
1. [トレイ / 排出] タブを選択します。



2. [用紙トレイ選択] で [トレイ 5 (手差し)] を選択します。

3. [トレイの高度な設定] をクリックします。

4. 次の操作をします。



1) [手差し用紙種類] で [厚紙 2] を選択します。

2) [手差し用紙の給紙方向] で次の設定をします。

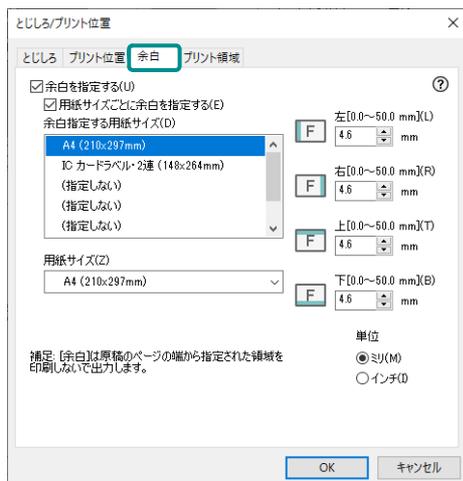
- 2 連 用紙の場合: [たて置き優先]
- シングル 用紙の場合: [よこ置き優先]

3) [OK] をクリックします。

[手差し設定] ダイアログボックスが閉じます。

5. [とじしろ / プリント位置] をクリックします。

6. [余白] タブを選択し、次の操作をします。



1) [余白を指定する] にチェックマークを付けます。

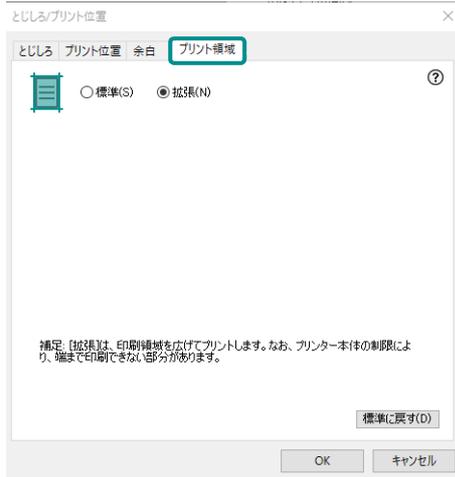
2) [用紙サイズごとに余白を設定する] にチェックマークを付けます。

3) [余白を指定する用紙サイズ] で [(指定しない)] を選択します。

4) [用紙サイズ] で、2 連用紙の場合は [IC カード・ラベル 2 連 (148×264mm)]、シングル用紙の場合は [IC カード・ラベル シングル (132×148mm)] を選択します。

5) 余白をすべて [0.0] mm にします。

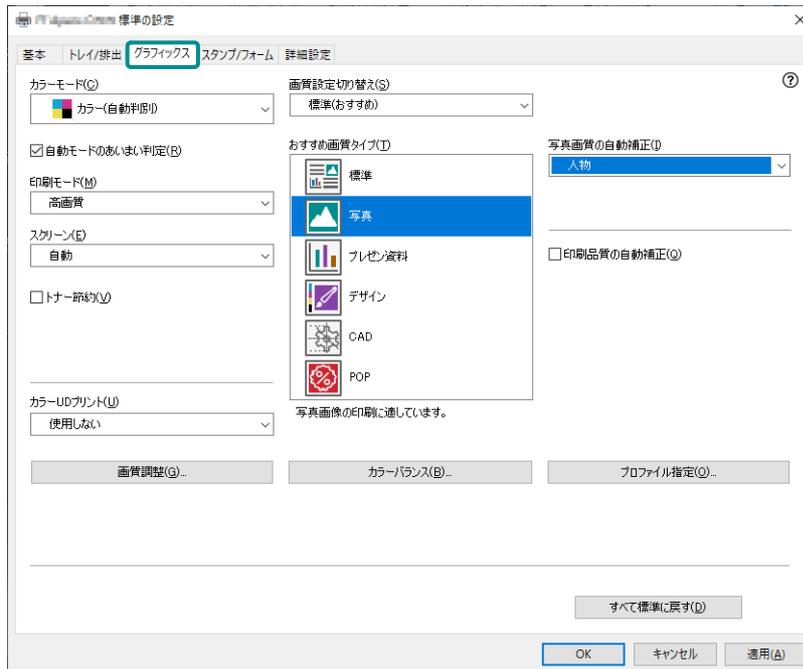
7. [プリント領域] のタブを選択し、拡張を選択します。



1) [OK] をクリックします。

[グラフィックス] タブの項目を設定する

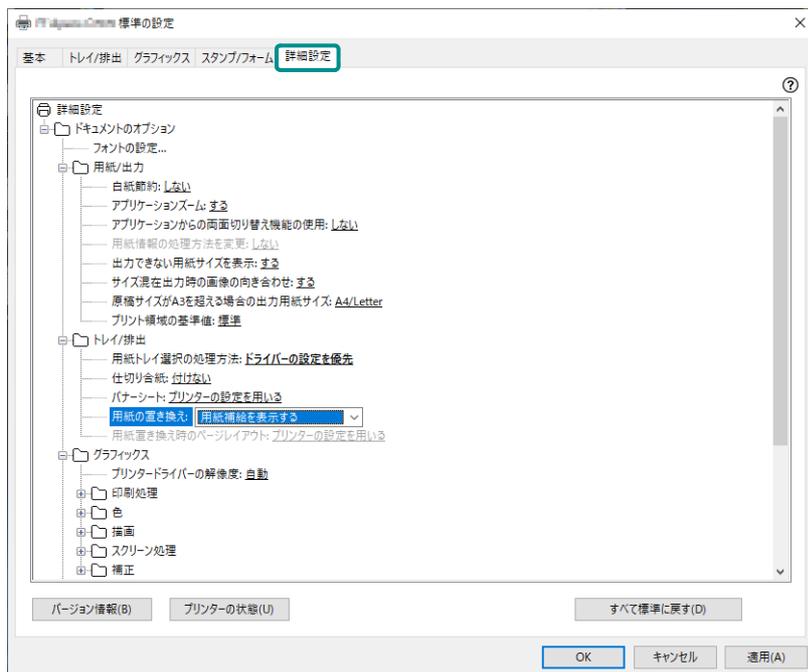
1. [グラフィックス] タブを選択します。



2. [カラーモード] で [カラー (自動判別)] を選択します。
3. [自動モードのあいまい判定] にチェックマークを付けます。
4. [印刷モード] で [高画質] を選択します。
5. [画質設定切り替え] で [標準 (おすすめ)] を選択します。
6. [おすすめ画質タイプ] で [写真] を選択します。
7. [写真画質の自動補正] で [人物] を選択します。

[詳細設定] タブの項目を設定する

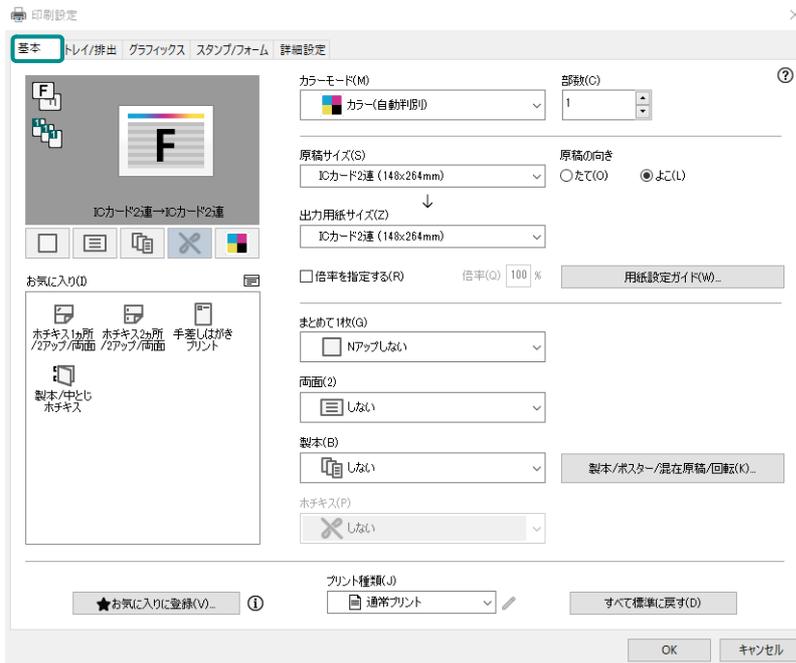
1. [詳細設定] タブを選択し、各項目の左側にある [+] をクリックして展開します。



2. [用紙トレイ選択の処理方法] で [ドライバーの設定を優先] を選択します。
3. [用紙の置き換え] で [用紙補給を表示する] を選択します。

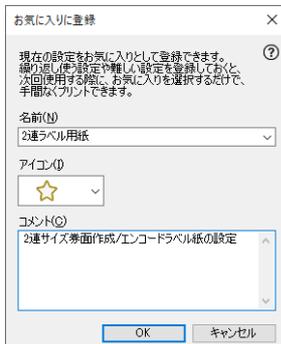
印刷設定を保存する

1. プリンターの標準の設定画面で各項目を変更したあと、[基本] タブを選択します。



2. [お気に入りに登録] をクリックします。

3. 次の設定をします。



1) [名前] に、任意の名前を入力します。

名前から使用するサイズがわかるように、「2 連ラベル用紙」または「シングルラベル用紙」に設定することをおすすめします。

2) [アイコン] のプルダウンメニューから、お好きなアイコンを選択します。

3) [コメント] に、任意のコメントを入力します。

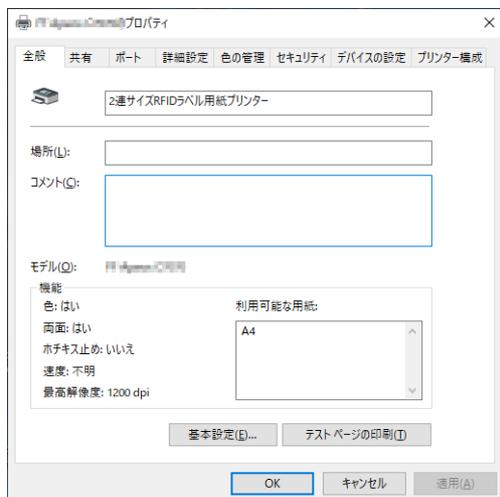
用紙サイズがわかるように、「2 連サイズ券面作成 / エンコードラベル紙の設定」、または「シングルサイズ券面作成 / エンコード用ラベル用紙の設定」のように入力することをおすすめします。

4) [OK] をクリックします。

4. [OK] をクリックします。

プリンターの設定を保存する

1. [全般] タブを選択します。
2. 次の設定をします。



- 1) プリンター名の欄に任意の名前を入力します。

プリンター名からサイズがわかるように、[2連サイズ RFID ラベル用紙プリンター] または [シングルサイズ RFID ラベル用紙プリンター] のように入力することをおすすめします。

- 2) [OK] をクリックします。

3. [デバイスとプリンター] 内に、プリンターが登録されていることを確認します。

2.4 用紙を設定する

弊社製の IC カードラベル 2 つ折り、および IC ラベルを使用する場合は、複合機やプリンターの操作パネルで用紙種別を次のとおりに設定してください。

注記

- 画質を正しく保つためには、転写出力調整値、または転写電圧オフセット値を初期設定値より高くする必要があります。初期設定値のまま、または初期設定値より低くした場合は、画質不良の原因になります。

複合機の場合

設定項目	設定値
用紙種別	厚紙 2
転写出力調整	初期設定値 (0) を +5 ~ +10 に設定してください。 設定値は、画像を見ながら調整してください。

補足

- 設定方法は、複合機のマニュアルを参照してください。
- 用紙種別を [厚紙 2]、転写出力調整値を [+10] に設定しても、転写出力が不足する場合は、用紙種別を [厚紙 2 裏] に設定し、ふたたび転写出力調整値を調整してください。

プリンターの場合

設定項目	設定値
用紙種別	厚紙 2
転写出力オフセット	初期設定値 (+6) を +11 ~ +16 に設定してください。 設定値は、画像を見ながら調整してください。

補足

- 設定方法は、プリンターのマニュアルを参照してください。

2.5 ソフトウェアをインストールする

注記

- インストールするときは、エンコード装置を接続しないでください。
- Microsoft .NET Framework 3.5 の有効化またはインストールが必要です。次の URL で、有効になっているかを確認してください。
[https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/hh506443\(v=vs.110\).aspx](https://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/hh506443(v=vs.110).aspx)
- インストールには、管理者権限が必要です。

1. ICカード・ラベル発行システムのインストール CD-ROM を、コンピューターにセットします。

インストーラーが自動で起動されます。

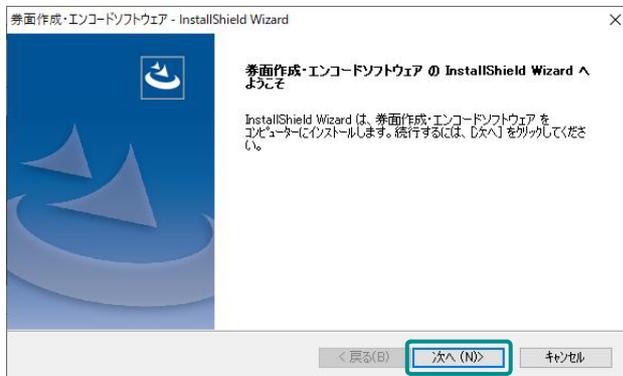
起動されない場合は、CD-ROM 内の「RFIDLancher.exe」を実行してください。

2. [ソフトウェアインストール] をクリックします。

インストールウィザードが開始されます。

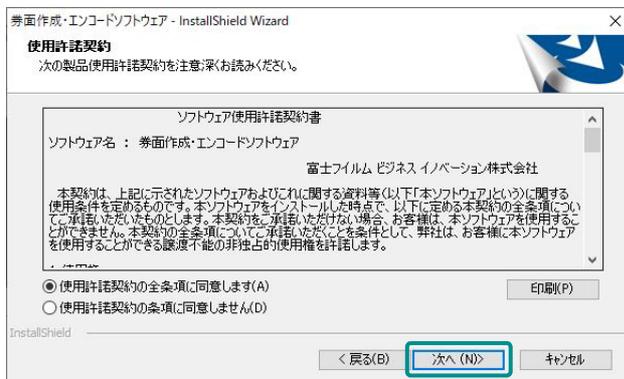


3. [次へ] をクリックします。



4. 次の操作をします。

- 1) [使用許諾契約] を確認し、[使用許諾契約の全条項に同意します] を選択します。
- 2) [次へ] をクリックします。



インストールが開始されます。

5. [完了] をクリックします。



3 券面作成ソフトウェア

3.1 券面作成ソフトウェアとは

券面作成ソフトウェアでできること

券面作成ソフトウェアでは、ユーザー情報ファイルをもとに、実際に印刷する券面レイアウトを作成できます。また、作成した券面レイアウトを印刷できます。



プロパティ領域

3.2 起動と終了

起動する

1. エンコード装置の2つのUSBコネクタを、コンピューターの2つのUSBポートにそれぞれ接続します。



• 「エンコード装置を接続する」(P.10)

2. スタートメニューから、[FUJIFILM] > [券面作成・エンコードソフトウェア] > [券面作成・エンコードソフトウェア] をクリックします。



- エンコード装置を接続していない場合は、エラー画面が表示されます。[OK] をクリックすると、券面作成機能だけを利用できます。
- デスクトップのショートカットアイコンをダブルクリックすることでも、起動できます。

終了する

1. [ファイル] > [終了] をクリックします。または、画面右上の [×] ボタンをクリックします。
[券面作成・エンコードソフトウェア：エンコード] 画面が表示されている場合は、同時に終了します。



- 券面作成・エンコードソフトウェア終了時には、バーコードの読み取り操作はしないでください。
- [券面作成・エンコードソフトウェア：エンコード] 画面を直接終了しないでください。直接終了した場合は、[券面作成・エンコードソフトウェア：券面作成] 画面を終了し、再度、券面作成・エンコードソフトウェアを起動してください。

3.3 ユーザー情報ファイル (CSV ファイル) を作成する

ユーザー情報ファイルとは

ユーザー情報ファイルは、券面に配置する項目（券面アイテム）と、IC メモリーに書き込むデータを定義するファイルです。

ユーザー情報ファイルは、文字コードが Shift_JIS、カンマ区切りの CSV 形式で作成します。

券面アイテムには、券面に挿入する文字列、およびイメージファイルのパスを定義します。券面作成ソフトウェアがユーザー情報ファイルを読み込むと、ヘッダー行の文字列が、[挿入] メニューのプルダウンメニューとして追加されます。追加されたメニューで配置した券面アイテムには、ユーザー情報ファイルから読み込んだデータが挿入され、プレビュー領域に表示されます。

券面には、タグバーコードが配置されます。このタグバーコードには、ユーザー情報ファイルのレコードを特定する情報が記録されます。これにより、エンコードソフトウェアが、紐付けられたデータを特定して IC メモリーに書き込みます。

IC メモリーに書き込むデータは、エンコードソフトウェアの設定によって、定義方法が異なります。

• 弊社の標準データ形式を使用する場合

ユーザー情報ファイルに、「ID」および「発行回数」という項目を定義します。エンコードを実行すると、この項目の情報が、書き込みデータ形式に自動で変換されて IC メモリーに書き込まれます。

詳しくは、「券面に配置する項目を定義する」(P.28) を参照してください。

補足

- 「発行回数」は、IC カードの発行回数です。IC カードを新規に作成する場合は「1」、カードを紛失するなどして再発行する場合には「2」に変更するなどの運用に利用します。

• 弊社の標準データ形式を使用しない場合

ヘッダー行に IC メモリーの書き込み先、レコード行に書き込みデータを入力します。

詳しくは、「IC メモリーに書き込むデータを定義する」(P.29) を参照してください。

ユーザー情報ファイルの作成例は、次のとおりです。

DATA-00-01.名前.氏名(ローマ字).氏名(フリガナ).名称.区分.ID.発行日.有効期限.顔写真	ヘッダー行	1行レコード
x3731303030313233FFFFFFFFFFFFFFFF.富士	未来Miku Fujiフジ	ミク.富士未来大学.文学部.7000123.2012年12月01日.発行.2015年03月31日.迄有効.000123.jpg.
x3731303031303030FFFFFFFFFFFFFFFF.横浜	真Minato Yokohama.ヨコハマ	ミナト.富士未来大学.理学部.7001000.2013年04月01日.発行.2015年12月31日.迄有効.001000.jpg.
x3932303030303435FFFFFFFFFFFFFFFF.藤	みどりMidori Fujiフジ	ミドリ.富士未来大学.経済学部.9000045.2013年06月21日.発行.2016年06月30日.迄有効.000045.jpg.
x3932303032303438FFFFFFFFFFFFFFFF.藤二	花子Hanako Fujiフジ	ハナコ.富士未来大学.法学部.9002048.2013年06月21日.発行.2016年06月30日.迄有効.002048.jpg.
x3833303032303232FFFFFFFFFFFFFFFF.横浜	仲夏Cyuka Yokohama.ヨコハマ	チュウカ.富士未来大学.理工学部.8002022.2013年04月01日.発行.2016年08月30日.迄有効.002022.jpg.
x3533303032303031FFFFFFFFFFFFFFFF.富士	みなとMinato Fujiフジ	ミナト.富士未来大学.情報学部.5002001.2013年09月01日.発行.2015年04月01日.迄有効.002001.jpg.
x3534303032303334FFFFFFFFFFFFFFFF.港	未来Mirai Minato.ミナト	ミライ.富士未来大学.医学部.5002034.2013年11月01日.発行.2016年03月31日.迄有効.002034.jpg.

IC カードのメモリーに書き込むデータ

券面に配置する項目を定義する

注記

- エンコードソフトウェアの設定で、弊社の標準データ形式を使用するように設定している場合は、「ID」と「発行回数」を必ず定義してください。

1. 券面に載せる情報を決めます。

「名前」、「名称」、「区分」、「ID」、「発行日」、「発行回数」、「顔写真」を掲載することに決めます。以降、これらの項目を定義する例で説明します。

2. ヘッダー行を作成します。

カンマ区切りの CSV ファイルとして、1 行目に次のように入力します。

名前, 名称, 区分, ID, 発行日, 発行回数, 顔写真

補足

- 券面作成ソフトウェアで、[挿入] メニューに追加できる券面アイテムは、最大 50 アイテムです。

3. レコード行を作成します。

手順 2 に続けて、2 行目以降にデータを入力します。

ヘッダー行：名前, 名称, 区分, ID, 発行日, 発行回数, 顔写真

レコード行：富士 未来, 富士未来大学, 文学部, 7000123, 2016 年 12 月 01 日 発行, 1,00123.jpg

注記

- 「ID」は、半角の英数字と記号だけ入力できます。ただし、次の記号は使用できません。
ダブルクォート ("), プラス (+)、セミコロン (;)、山かっこ (< >)、クエスチョン (?),
大かっこ ([])、バッククォート (`), 波かっこ ({ }), パイプ (|)
- 「発行回数」は、半角の数字だけ入力できます。

参照

- 入力可能なレコード数は、最大 5,000 レコードです。

4. 文字コードが Shift_JIS、カンマ区切りの CSV 形式として保存します。

ユーザー情報ファイルの注意点

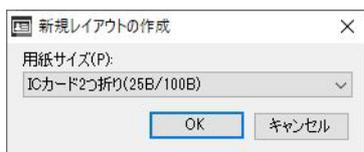
- 1つのレコードは行の先頭から改行文字またはファイル末尾までです。
- カラム区切りはカンマ固定です。
- 末尾行または中間行が空行であった場合は無視されます。
- カラムが不足しているレコードが存在した場合は、ユーザー情報ファイルの読み込みエラーとなります。
- 文字列に半角ダブルクォーテーション「"」を含める場合、その直前に1つ半角ダブルクォーテーションを付加してダブルクォーテーションを2つ並べた上で、該当データを半角ダブルクォーテーション「"」で囲みます。データを半角ダブルクォーテーション「"」で囲んだ場合、先頭と末尾の半角ダブルクォーテーション「"」は、無視されます（例：「"注意書き"」を入れること → 「注意書き"」を入れること）。
- 文字列に「#」を含める場合、文字列を「#」で挟まないでください（正しくない例：「#更新日時#」）。
- エンコードソフトウェアのレコード一覧画面では、ユーザー情報ファイルの「名前」カラムの内容が表示されます。「名前」カラムがない場合は、ユーザー情報ファイルの左端のカラムの情報（書き込みデータカラムを除く）が表示されます。
- Microsoft Excel や同等機能を持つソフトウェアを使用して CSV 形式を保存すると、カンマ区切りがカンマ以外に変更されたり、禁止記号が追加されたりして、CSV ファイル形式として成り立たなくなる場合があります。保存する場合は注意してください。
- 先頭に「0」を使用している文字列がある場合、Microsoft Excel で開くと0が消去されることがあります。
- ユーザー情報ファイルにバーコード画像を定義する場合、NW-7フォント以外のバーコードフォントを使用してください。NW-7フォントは、書き込みデータを特定するためのタグバーコードで使用されています。タグバーコード以外でNW-7フォントが使用されると、書き込みデータの特定に支障が生じ、エンコードできなくなります。

3.4 券面レイアウトを作成する

券面レイアウトを新規作成する

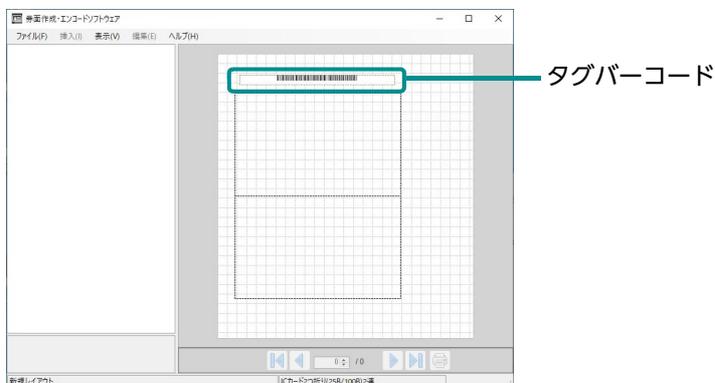
用紙サイズの選択

1. [ファイル] メニューから [新規レイアウトの作成] を選択します。
2. 次の操作をします。

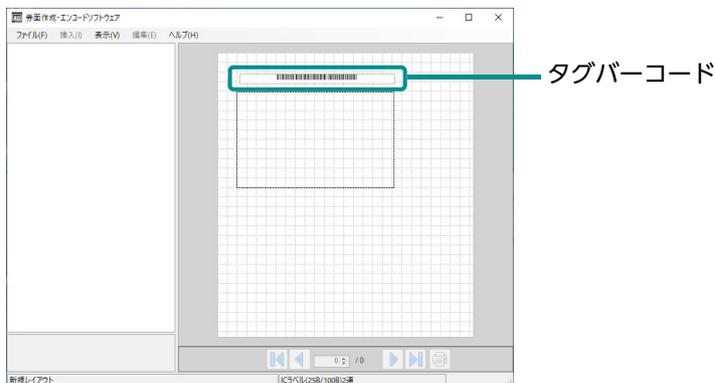


- 1) [用紙サイズ] で、使用する用紙種類を選択します。

- IC カード 2つ折り



- IC ラベル



- 2) [OK] をクリックします。

補足

- IC メモリーにデータを書き込むために必要なタグバーコードが、自動で挿入されます。タグバーコードは、削除できません。

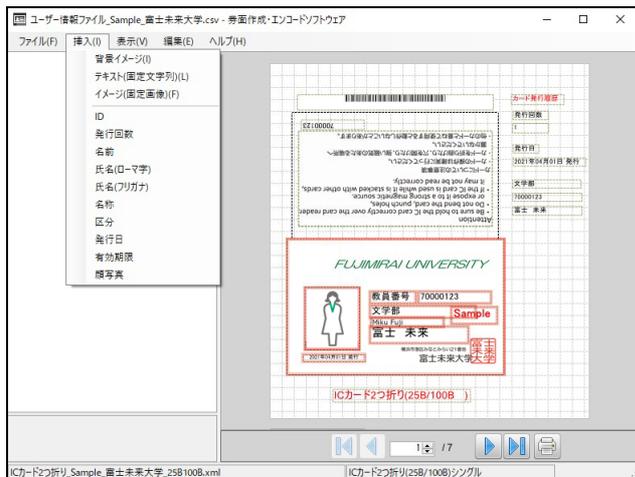
ユーザー情報ファイルを読み込む

1. [ファイル] メニューから [ユーザー情報の読み込み] を選択します。
2. [ユーザー情報ファイルの読み込み] ダイアログボックスで、次の操作をします。
 - 1) 事前に作成したユーザー情報ファイル (CSV ファイル) を選択します。
 - 2) [開く] をクリックします。
3. [挿入] メニューに、読み込んだファイルのヘッダー行が反映されていることを確認します。

券面アイテムを配置する

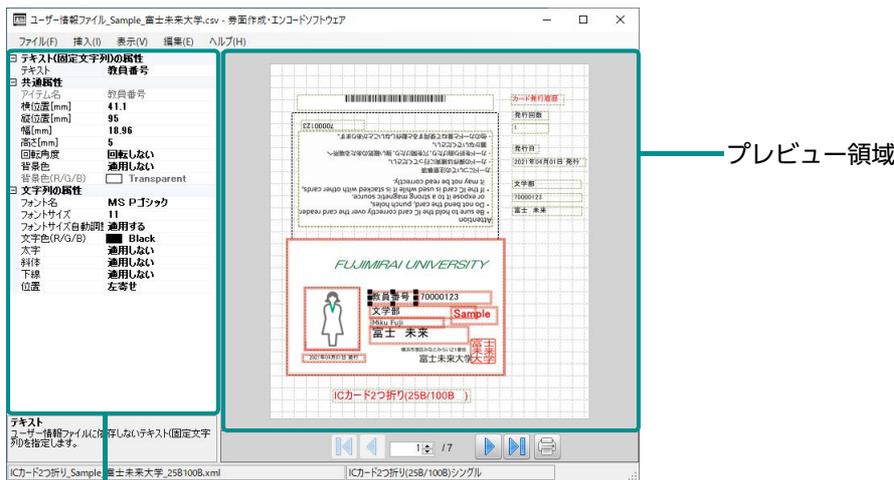
[挿入] メニューから、券面アイテムを読み込んで配置します。

アイテムごとの詳しい操作方法は、「3.5 券面アイテムを配置する」(P.34) を参照してください。



券面アイテムを編集する

券面アイテムは、プレビュー領域のマウス操作やキーボードの上下左右キー操作で、位置やサイズを変更できます。また、プロパティ領域では、選択されている券面アイテムのすべての属性を変更できます。

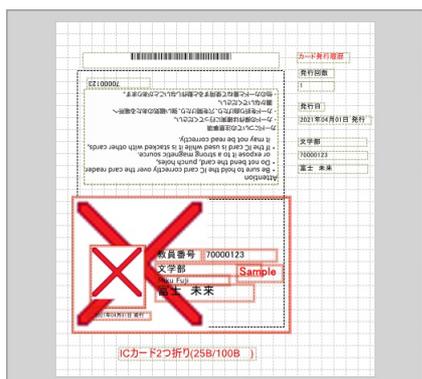


プロパティ領域

プレビュー領域

補足

- イメージが表示されない場合、ファイルパスが間違っているか、ファイルが存在しない可能性があります。



- アイテム枠が赤くなっている箇所は、アイテム枠同士が重なっています。文字やイメージなどの欠けや消え、アイテムの位置などを、用紙プレビュー画面で必ず確認してください。
- アイテム枠が灰色になっているアイテムは、ユーザー情報ファイルに存在しません。読み込んだユーザー情報ファイルとレイアウトファイルが正しいか、必ず確認してください。灰色のアイテムがある状態では券面レイアウトを印刷できません。灰色のアイテムは通常の券面アイテムと同じように削除できます。



3.5 券面アイテムを配置する

タグバーコードを配置する

タグバーコードは、ユーザー情報ファイルの書き込みデータカラムの情報を、IC メモリーに書き込むために必要なアイテムです。レイアウトを新規作成すると、タグバーコードが自動で配置されます。

必要に応じて、位置や回転角度を変更してください。削除することはできません。

注記

- タグバーコードの背面に色が付いていたたり、イメージや文字などと重なっていたりすると、バーコードが正しく読まれない場合があります。

補足

- バージョン 3.0.0 以前の券面作成・エンコードソフトウェアで作成したレイアウトには、タグバーコードが配置されていないことがあります。このようなレイアウトを読み込んだ場合、タグバーコードが、自動で追加されます。
- 挿入された時点で表示されるタグバーコードおよび値は、仮の値です。実際の値は、印刷時に決定されます。
- タグバーコードは、IC カードラベル枠内外に配置できます。
- IC メモリーへの書き込みでは、タグバーコードを読んで IC チップに書き込みます。そのため、IC チップのあるカードラベル枠内の近くにタグバーコードを配置してください。また、印刷時に多少レイアウトがずれることがありますので、枠から 1～2 mm 以上離してください。

背景イメージを配置する

1. [挿入] メニューから [背景イメージ] をクリックします。
2. 次の操作をします。

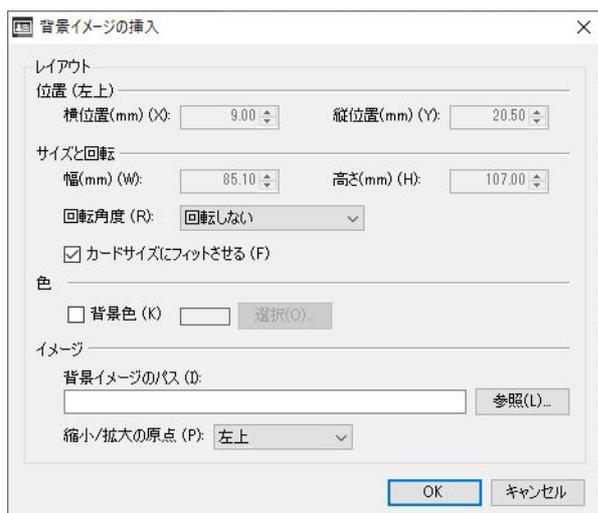
- 1) 読み込む画像ファイルを選択します。

補足

- 対象のファイル形式は、BMP、JPG、PNG、TIFF(LZW 圧縮)、EMF、WMF です。

- 2) [開く] をクリックします。

3. 必要に応じて、次の設定をします。



項目	設定内容
[位置 (左上)]	左上から何 mm の位置に背景画像を配置するかを設定します。位置は挿入後も変更できます。
[幅] / [高さ]	画像の幅と高さを指定します。
[回転角度]	[回転しない]、[右に 90 度]、[左に 90 度]、[180 度] から選択します。
[カードサイズにフィットさせる]	チェックマークを付けると、背景画像を縮小または拡大し、自動でカードサイズと背景画像の大きさを合わせます。  補足 • この項目を選択している場合は、画像の位置やサイズを変更できません。
[背景色]	チェックマークを付けると、背景画像の余白部分を指定された色で塗りつぶします。チェックマークを付けた状態で [選択] をクリックすると、背景色を選択できます。
[縮小 / 拡大の原点]	縮小または拡大の原点の位置を指定します。

4. [OK] をクリックします。

背景イメージが挿入されます。

5. プレビュー領域で画像をドラッグするか、プロパティ領域で数値を変更して、位置やサイズを調整します。

補足

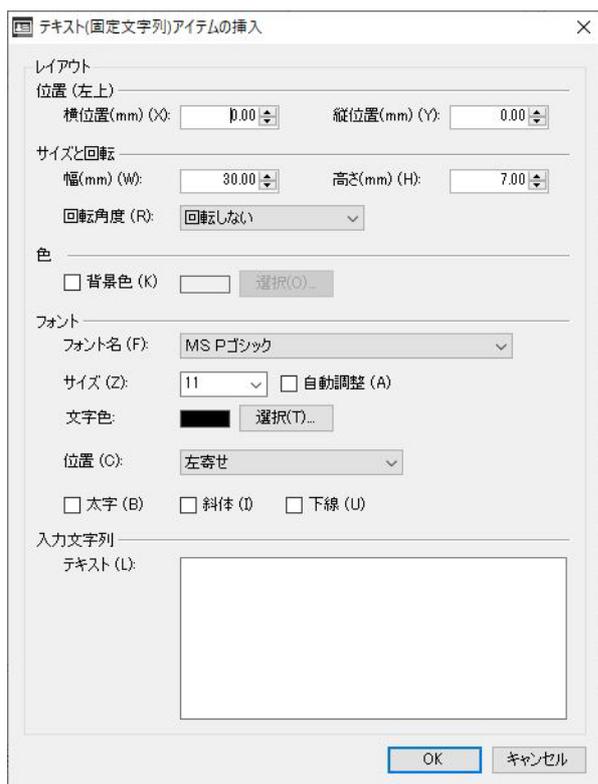
- 背景画像は、IC カードラベルサイズより 1 ~ 2 mm 程度大きくすると、印刷ずれなどが発生しても、イメージ欠けを防げます。

テキスト（固定文字列）を配置する

1. [挿入] メニューから [テキスト（固定文字列）] を選択します。

2. [テキスト] に挿入したい文字列を入力します。

3. 必要に応じて、次の設定をします。



項目	設定内容
[位置 (左上)]	左上から何 mm の位置に文字列を配置するかを設定します。位置は挿入後も変更できます。
[幅] / [高さ]	文字列領域の幅と高さを指定します。
[回転角度]	[回転しない]、[右に 90 度]、[左に 90 度]、[180 度] から選択します。
[背景色]	チェックマークを付けると、背景画像を指定された色で塗りつぶします。チェックマークを付けた状態で [選択] をクリックすると、背景色を選択できます。
[フォント名]	フォントを選択します。
[サイズ]	フォントサイズを選択します。
[自動調整]	指定されたフォントサイズではテキスト表示領域からはみ出してしまう場合、全体を表示できるようにフォントサイズを自動で調整します。
[文字色]	文字の色を指定します。[選択] をクリックすると、文字色を選択できます。
[位置]	[左寄せ]、[右寄せ]、[中央]、[均等割り付け] から選択します。
[太字]	チェックマークを付けると、太字になります。
[斜体]	チェックマークを付けると、斜体になります。
[下線]	チェックマークを付けると、下線が入ります。

4. [OK] をクリックします。

文字列が挿入されます。

5. プレビュー領域で文字列をドラッグするか、プロパティ領域で数値を変更して、位置やサイズを調整します。

補足

- テキスト内は改行ができません。
- テキスト内での文字サイズや色などの属性は複数指定できません。変更が必要な場合は、複数のテキストを挿入してください。

固定の画像を配置する

1. [挿入] メニューから [イメージ (固定画像)] をクリックします。
2. 次の操作をします。

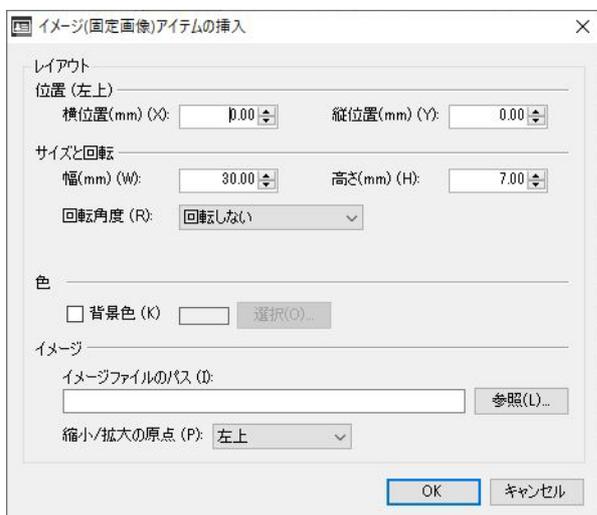
- 1) 読み込む画像ファイルを選択します。

補足

- 対象のファイル形式は、BMP、JPG、PNG、TIFF(LZW 圧縮)、EMF、WMF です。

- 2) [開く] をクリックします。

3. 必要に応じて、次の設定をします。



項目	設定内容
[位置 (左上)]	左上から何 mm の位置に画像を配置するかを設定します。位置は挿入後も変更できます。
[幅] / [高さ]	画像の幅と高さを指定します。
[回転角度]	[回転しない]、[右に 90 度]、[左に 90 度]、[180 度] から選択します。
[背景色]	チェックマークを付けると、画像の余白を指定された色で塗りつぶします。チェックマークを付けた状態で [選択] をクリックすると、背景色を選択できます。
[縮小 / 拡大の原点]	縮小または拡大の原点の位置を指定します。

4. [OK] をクリックします。
画像が挿入されます。
5. プレビュー領域で画像をドラッグするか、プロパティ領域で数値を変更して、位置やサイズを調整します。

ユーザー情報ファイルに定義したアイテムを配置する

注記

- ユーザー情報ファイルからバーコードを挿入する場合、NW-7 フォント以外のバーコードフォントをご使用ください（コード 39 など）。NW-7 フォントは、エンコード時に書き込みデータとの関連付けに使用するタグバーコードで使用されています。複数の NW-7 フォントのバーコードを検出すると関連付けに支障が生じ、エンコードできなくなります。

1. [挿入] メニューから、挿入したい項目を選択します。
2. 挿入するアイテムの設定をします。

券面アイテムの挿入 : 顔写真

レイアウト

位置 (左上)

横位置(mm) (X): 0.00 縦位置(mm) (Y): 0.00

サイズと回転

幅(mm) (W): 30.00 高さ(mm) (H): 7.00

回転角度 (R): 回転しない

色

背景色 (K) 選択(O)...

文字列 (S)

フォント名 (F): MS Pゴシック

サイズ (Z): 11 自動調整 (A)

文字色: 黒 選択(T)...

位置 (C): 左寄せ

太字 (B) 斜体 (I) 下線 (U)

イメージ (G)

イメージ格納フォルダ (D): 参照(L)...

縮小/拡大の原点 (P): 左上

OK キャンセル

1) レイアウトを設定します。

項目	設定内容
[位置 (左上)]	左上から何 mm の位置にアイテムを配置するかを設定します。位置は挿入後も変更できます。
[幅] / [高さ]	アイテムの幅と高さを指定します。
[回転角度]	[回転しない]、[右に 90 度]、[左に 90 度]、[180 度] から選択します。
[背景色]	チェックマークを付けると、アイテムの余白を指定された色で塗りつぶします。チェックマークを付けた状態で [選択] をクリックすると、背景色を選択できます。

文字列のアイテムを挿入する場合

- 2) [文字列] を選択します。
- 3) 必要に応じて、次の設定をします。

項目	設定内容
[フォント名]	フォントを選択します。
[サイズ]	フォントサイズを選択します。
[自動調整]	指定されたフォントサイズではテキスト表示領域からはみ出してしまう場合、全体を表示できるようにフォントサイズを自動で調整します。
[文字色]	文字の色を指定します。[選択] をクリックすると、文字色を選択できます。
[位置]	[左寄せ]、[右寄せ]、[中央]、[均等割り付け] から選択します。
[太字]	チェックマークを付けると、太字になります。
[斜体]	チェックマークを付けると、斜体になります。
[下線]	チェックマークを付けると、下線が入ります。

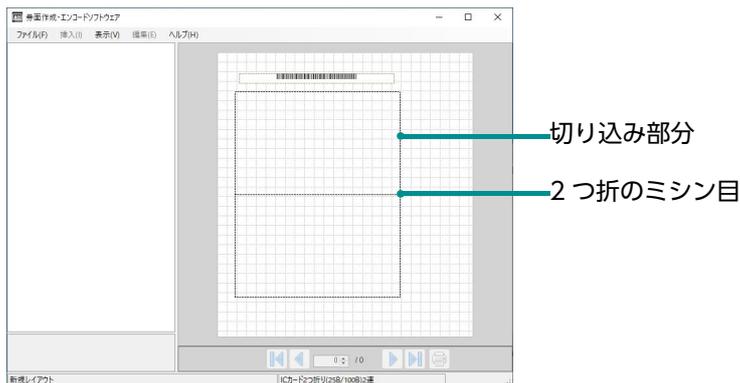
画像のアイテムを挿入する場合

- 2) [イメージ] を選択します。
 - 3) [参照] をクリックし、挿入する画像が格納されたフォルダーを選択します。
 - 4) 拡大、縮小の原点の位置を選択します。
3. [OK] をクリックします。
アイテムが挿入されます。
アイテムに対応するデータがユーザー情報ファイルから読み込まれて、プレビュー領域に表示されます。
4. プレビュー領域で画像をドラッグするか、プロパティ領域で数値を変更して、位置やサイズを調整します。

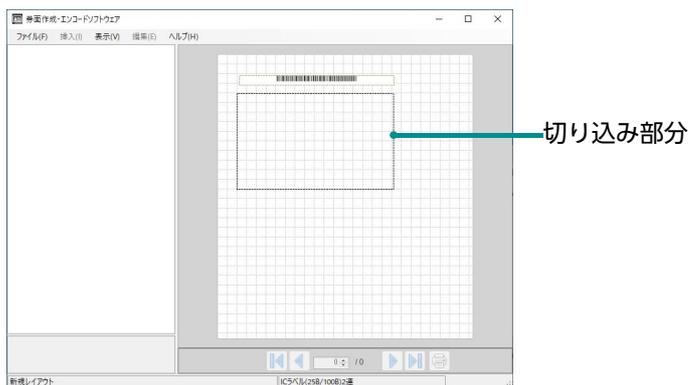
券面アイテムを配置するときの注意点

- 複合機には、印字できない領域があります。お使いの複合機のマニュアルなどで確認してください。
- タグバーコードは、IC メモリーへの書き込みに必要な情報です。他のアイテムと重ならないように配置してください。タグバーコードが読めないと、IC メモリーへの書き込みができません。
- 複合機を共有設定にしている、印刷位置を変更できない場合は、券面イメージをずらして調整してください。
- 複合機の種類によって、印刷位置がずれることがあります。その場合は、複合機の印刷位置設定を調整してください。
- 用紙上のカード型の切り込み部分や、2 つ折りのミシン目に印刷すると、トナーが用紙に定着できなくて、用紙が汚れることがあります。

- IC カード 2 つ折りの場合



- IC ラベルの場合



- 券面アイテムは、最大 50 個配置できます。
- 1 つの券面アイテムを複数個所で使用できます。複数使用してもアイテム数には加算されません。
例：ID というアイテムを券面と裏面に用いる。
- 券面アイテムは、IC カードラベルのエリア外に配置できます。
例：IC カードラベルのエリア外に、券面情報などの内容を残したり、コメントなどに使用したりする。
- IC カードラベルのエリア外に配置したタグバーコードや券面アイテムは、IC カードラベルを剥がしたあとの IC カードラベル用紙に残ります。

3.6 券面レイアウトを読み込む

1. [ファイル] メニューから [レイアウトの読み込み] をクリックします。
2. 「編集中のレイアウトを削除しますか？」というメッセージを確認し、[はい] をクリックします。
3. [レイアウトの読み込み] ダイアログボックスで、次の操作をします。
 - 1) レイアウトファイルを選択します。
 - 2) [開く] をクリックします。
4. [ファイル] メニューから [ユーザー情報ファイルの読み込み] をクリックします。
5. [ユーザー情報ファイルの読み込み] ダイアログボックスで、次の操作をします。
 - 1) ユーザー情報ファイルを選択します。
 - 2) [開く] をクリックします。
6. 編集する場合は、属性の編集やマウス操作による編集をします。

旧バージョンで作成したレイアウトを読み込む場合

バージョン 3.0.0 以前の券面作成・エンコードソフトウェアで作成したレイアウトを読み込む場合、次の項目を自動で調整できます。

- 用紙レイアウトの調整

レイアウトファイルを開くときに、新しい用紙レイアウトに合わせてレイアウト調整するかを問い合わせるメッセージが表示されます。「はい」をクリックすると、レイアウトが自動で調整されます。

用紙のうら面を確認し、「B」と記載されている場合はレイアウトを調整してください。

用紙レイアウトは、レイアウトファイルを開いたあとで、[編集]>[新用紙レイアウト (25B/100B) に自動調整]を実行することでも調整できます。

補足

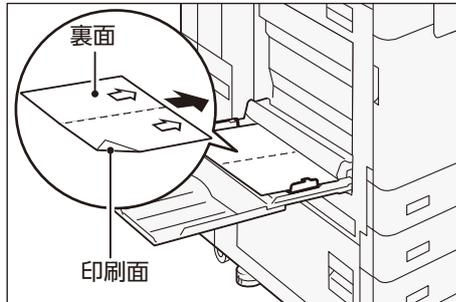
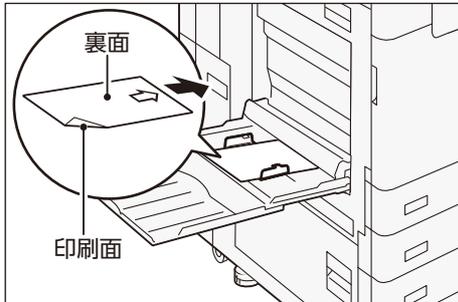
- 調整された用紙レイアウトは、保存するまではレイアウトファイルに反映されません。
- タグバーコードの追加
タグバーコードを配置していないレイアウトを読み込んだ場合、自動で追加されます。

3.7 複合機に用紙をセットする

1. 手差しトレイに、カードラベル用紙（2連用紙またはシングル用紙サイズ）をセットします。
用紙裏面の矢印に従ってセットしてください。

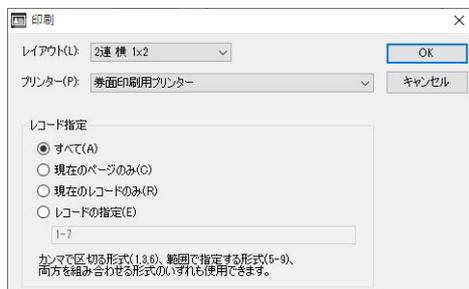
 **注記**

- セット時の印刷面の裏表は、機種によって異なります。お使いの機種の取扱説明書をご確認ください。



3.8 券面レイアウトを印刷する

1. 「3.7 複合機に用紙をセットする」(P.42) の手順で、複合機に用紙をセットします。
2. [ファイル] メニューから [印刷] を選択します。
3. 次の操作をします。



- 1) [レイアウト] で、プリンタードライバーで設定してあるレイアウトを選択します。
- 2) [プリンター] で、印刷する複合機を選択します。
- 3) [レコード指定] で、印刷するレコードを指定します。
- 4) [OK] をクリックします。
印刷が開始されます。

補足

- 印刷した券面は、イメージログとしてインストールフォルダーの「ImageLog」フォルダーに保存されます。ファイル形式は JPG です。

3.9 券面レイアウトを保存する

1. [ファイル] メニューから [レイアウトの保存]、または [レイアウトを別名で保存] をクリックします。

 **補足**

- [レイアウトの保存] を選択すると、レイアウトを上書き保存します。[レイアウトを別名で保存] をクリックすると、レイアウトを別のファイルに保存します。

3.10 券面レイアウトを DocuWorks 文書として保存する

券面作成・エンコードソフトウェアを使用しているコンピューターに、DocuWorks Desk がインストールされている場合、作成した券面レイアウトを、DocuWorks 文書として保存できます。

補足

- この機能では、券面のイメージだけを DocuWorks 文書として保存します。DocuWorks 文書として保存した券面を印刷しても、IC カードラベルとして使用できません。

1. [ファイル] メニューから [レイアウトの DocuWorks 保存] をクリックします。
2. [レコード指定] で、保存するレコードを選択します。
3. [OK] をクリックします。

DocuWorks Desk に、券面レイアウトが保存されます。

ファイル名は、レイアウトファイル名と同じで、拡張子が「.xdw」です。

補足

- DocuWorks 文書として保存する場合、2 連レイアウトでは保存できません。

3.11 券面レイアウトを用紙プレビューで表示する

用紙プレビューでは、券面レイアウトと用紙定義に従って、用紙の実際の印刷プレビューを表示します。

1. [表示] メニューから [用紙プレビュー] を選択します。



プレビュー領域と同様にボタン操作でレコードの移動が可能です。

補足

- 用紙プレビュー画面で、アイテム枠内の文字などが欠けていないか、枠からはみ出した文字が消えていないか、重なりや位置ずれがないかなどを必ず確認してください。

4 定義ファイル作成ツール

4.1 定義ファイル作成ツールとは

定義ファイル作成ツールは、券面作成・エンコードソフトウェアで使用する定義ファイル（セクタートレイラードefinitionファイル）を作成 / 編集するためのソフトウェアです。

セクタートレイラードefinitionとは、IC メモリーにデータを書き込むときに、書き込み先ブロックのアクセス権限（リード、ライト、加算、減算、キー A、およびキー B）を定義するデータです。

定義ファイル作成ツールで、権限やアクセスキーを定義したセクタートレイラードefinitionファイルを作成します。たとえば、次のように定義します。

- ID 番号を記録するブロックには、読み込み（リード）だけのアクセス権限とそのブロックにアクセスするための鍵（キー A、キー B）を設定する
- 課金情報を記録するブロックには、読み込み（リード）、書き込み（ライト）、加算、減算のアクセス権限と、そのブロックにアクセスするための鍵（キー A、キー B）を設定する

エンコードソフトウェアで、セクタートレイラードefinitionファイルを使用すると、定義したセクタートレイラードefinitionが、0 ~ 15 のセクタードefinitionのブロック 3 それぞれに書き込まれます。

ブロック 3 に書き込める大きさは 16 バイトです。16 バイトのうち、キー A として 6 バイト、アクセスビットとして 4 バイト、キー B として 6 バイト書き込めます。

セクタートレイラードefinitionファイルは CSV ファイル形式で保存されます。

メモリーマップは、次のとおりです。

Sector	Block	Block内のバイト情報															
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0	0																
	1	00	00	01	02	03	00	00	01	02	02	00	00	00	00	01	
	2																
	3																
1	0																
	1																
	2																
	3																
2	0																
	1																
	2																
	3																
15	0																
	1																
	2																
	3																

→ セクター 0 / ブロック 3

補足

- セクタートレイラードefinitionファイルは、保存するときに暗号化されます。テキストエディターなどで直接編集することはできません。
- 本システムが対応している IC メモリーは、MIFARE Classic 1K、または MIFARE Classic EV1 1K です。

4.2 起動と終了

起動する

1. スタートメニューから、[FUJIFILM] > [定義ファイル作成ツール] > [定義ファイル作成ツール] をクリックします。

終了する

1. [ファイル] メニューから [終了] をクリックします。
2. 「[定義ファイル作成ツール] を終了してもよろしいですか?」というメッセージを確認し、[はい] をクリックします。

4.3 セクタトレイラー定義ファイルを作成する

セクタトレイラーのデータを作成する

1. [セクター No.] で、作成するセクターの番号を入力します。

定義ファイル作成ツール
ファイル(F) ヘルプ(H)

セクタトレイラー定義ファイル

券面作成・エンコードソフトウェアで使用するセクタトレイラー定義ファイルを作成します。

セクタトレイラー データ編集

セクター No.

キー設定 (A, B)
キー A キー B

アクセスビット値

適用結果

2. [キー設定] で、[キー A]、[キー B] を 16 進数で入力します。
入力できるのは 6 バイトのデータです。

定義ファイル作成ツール
ファイル(F) ヘルプ(H)

セクタトレイラー定義ファイル

券面作成・エンコードソフトウェアで使用するセクタトレイラー定義ファイルを作成します。

セクタトレイラー データ編集

セクター No.

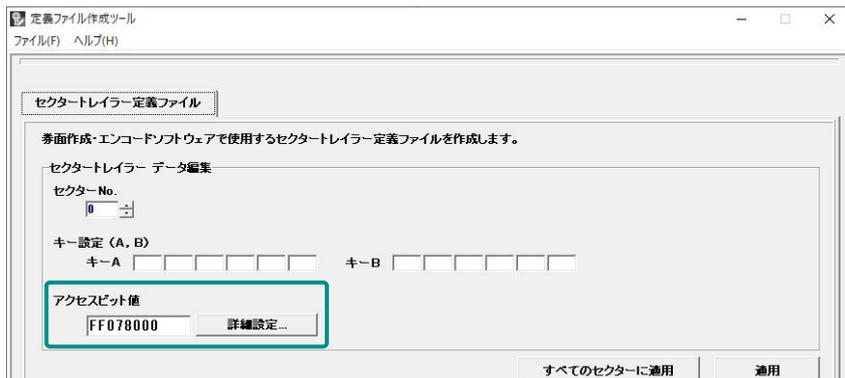
キー設定 (A, B)
キー A キー B

アクセスビット値

補足

- デフォルトのキー A (FFFFFFFFFFFF) を設定すると、すべてのアクセスが可能になります。
- キー B は不定になるため、読み出し側のシステムでキー B は使用できません。

3. アクセスビット値を設定します。タイプを組み合わせる場合は、[詳細設定] をクリックして、手順 4 に進みます。直接入力する場合は、テキストボックスに適切な値を入力して手順 5 に進みます。



4. [アクセスビット詳細設定] 画面で次のように設定します。

1) ブロック 0 ~ 2 のアクセスビットを設定します。

ブロックそれぞれに対して、設定したいタイプをテキストボックスに入力するか、ボタンをクリックして選びます。

説明図を参考に、設定するタイプを選択してください。

補足

- 工場出荷時は、Type1 に設定されています。

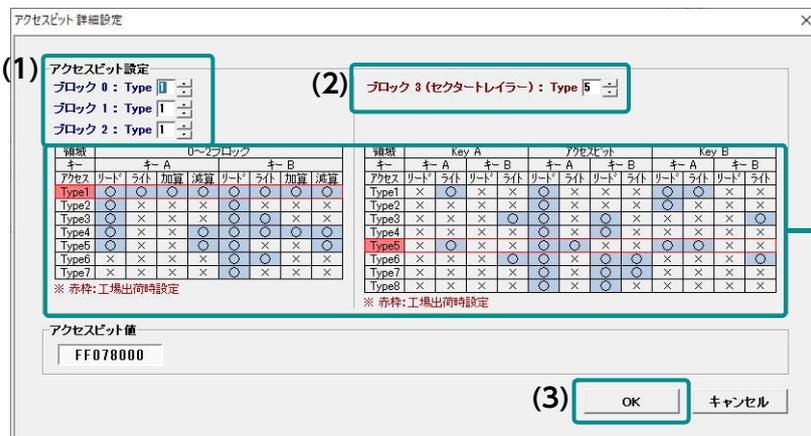
2) セクタートレイラー (ブロック 3) のアクセスビットを設定します。

設定したいタイプをテキストボックスに入力するか、ボタンをクリックして選びます。

補足

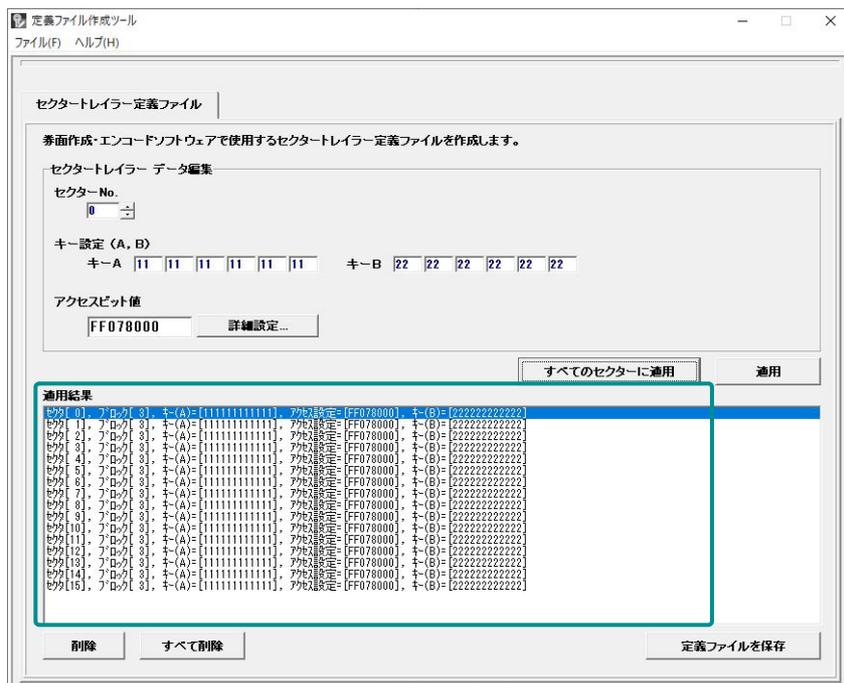
- 工場出荷時は、Type5 に設定されています。

3) [OK] をクリックします。



タイプの説明図

5. 設定したアクセスビット値を、選択したセクターに適用する場合は [適用] をクリックします。すべてのセクターに適用する場合は、[すべてのセクターに適用] をクリックします。
適用結果が表示されます。



6. ほかのセクターの設定をする場合は、手順 1 ~ 4 を繰り返します。

補足

- [削除] をクリックすると、選択したセクターレイヤーデータを削除します。
- [すべて削除] をクリックすると、すべてのセクターレイヤーデータを削除します。

7. [定義ファイルを保存] をクリックします。

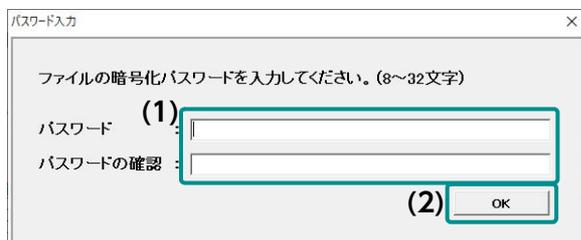
8. パスワード入力画面が表示されるので、次の操作をします。

- 1) [パスワード] と [パスワードの確認] に、半角英数字 8 ~ 32 文字でパスワードを入力します。

注記

- ここで設定するパスワードは、エンコードソフトウェアでセクターレイヤー定義ファイルを使用するときが必要です。パスワードを忘れると、ファイルを使用できなくなります。

- 2) [OK] をクリックします。



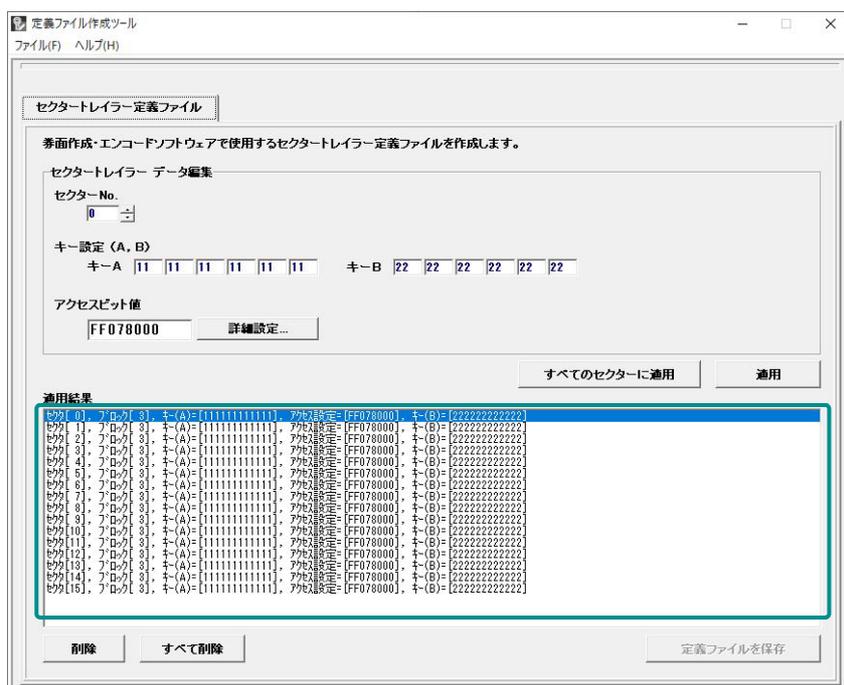
9. [セクターレイヤー定義ファイル情報の保存] ダイアログボックスで、フォルダーとファイル名を指定して、ファイルを保存します。

設定した内容は、保存時に暗号化されます。

セクタートレイラー定義ファイルを読み込む

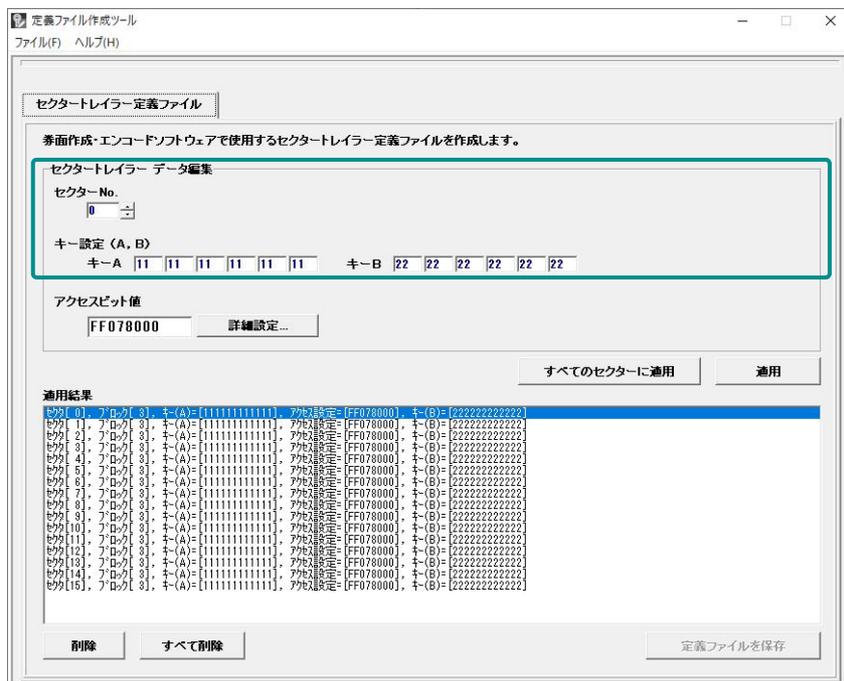
1. [ファイル] メニューから [セクタートレイラー定義ファイルの読み込み] をクリックします。
2. [セクタートレイラー定義ファイルの読み込み] ダイアログボックスで、次の操作をします。
 - 1) 開きたいセクタートレイラー定義ファイルを選択します。
 - 2) [開く] をクリックします。
3. [パスワード入力] ダイアログボックスで、次の操作をします。
 - 1) [パスワード] に保存時に設定したパスワードを入力します。
 - 2) [OK] をクリックします。

データ表示エリアに、読み込んだデータが表示されます。



セクタートレイラー定義ファイルを編集する

1. 編集するセクターを選択します。データ表示エリアで該当のセクターをクリックするか、[セクター No.] でセクターの番号を入力します。



補足

- [削除] をクリックすると、選択したセクタートレイラーデータを削除します。
- [すべて削除] をクリックすると、すべてのセクタートレイラーデータを削除します。

2. 「セクタートレイラーのデータを作成する」(P.49) の手順 2～8 を行います。

5 エンコードソフトウェア

5.1 エンコードソフトウェアとは

エンコードソフトウェアは、券面作成・エンコードソフトウェアで印刷した IC カードラベルのバーコードをエンコード装置で読み取り、バーコードに紐付けられた情報をユーザー情報ファイルから読み取って、IC メモリーに書き込みます。

5.2 定義ファイルを設定する

エンコードする前に、エンコードに必要な設定をします。

エンコード処理にセクタトレイラー定義ファイルを使用する場合は、定義ファイル作成ツールで事前に作成しておいてください。

🔗 参照

- 「4.3 セクタトレイラー定義ファイルを作成する」(P.49)

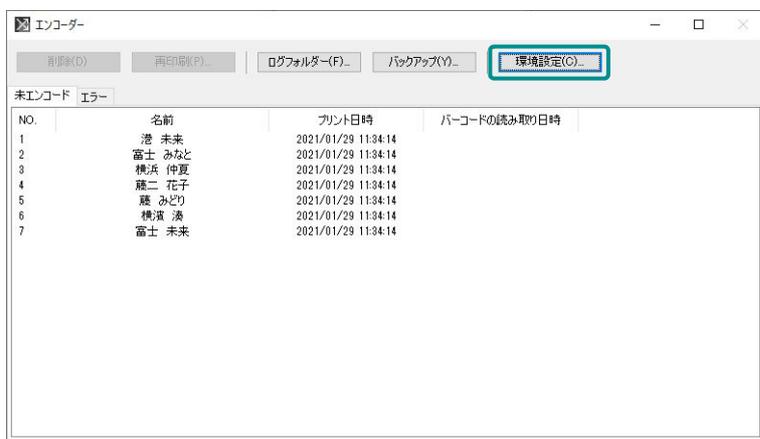
1. 券面作成・エンコードソフトウェアを起動します。

🔗 参照

- 「起動する」(P.26)

2. 2つ表示されるウィンドウのうち、[エンコーダー] ウィンドウを選択します。

3. [環境設定] をクリックします。



4. 次の操作をします。

弊社の標準の形式でエンコードする場合

1) [FUJIFILM Business Innovation 標準データ形式] を選択します。

2) IC カード・ラベル発行システムのインストール CD-ROM に記載されている、6桁のシリアル番号を入力します。

🗨️ 補足

- この方法を選択する場合、ユーザー情報ファイルに「ID」および「発行回数」というカラムが定義されている必要があります。
- IC カードを再発行する場合は、初回発行時に入力したものと同一シリアル番号を入力してください。



任意のデータ形式でエンコードする場合

- 1) [任意のデータ形式] を選択します。
- 2) セクタートレイラー定義ファイルを使用する場合は、チェックマークを付けて、以下の操作をします。
使用しない場合は、手順 5 に進みます。
- 3) [参照] をクリックして、「4.3 セクタートレイラー定義ファイルを作成する」(P.49) で作成した CSV ファイルを選択します。
- 4) ファイルの復号化パスワードを入力して、[適用] をクリックします。

セクタートレイラー定義ファイルを作成するときに設定したパスワードです。

環境設定

データ形式

FUJIFILM Business Innovation標準データ形式(O)

銘柄のシリアル番号を入力してください(E)

任意のデータ形式(O)

セクタートレイラー定義ファイルを使用する(E)

ファイル名(N): 参照(R)

ファイルの復号化パスワード(8~32文字)(P): 適用(A)

エンコード未処理の警告

エンコードが未処理なら警告する(W)

警告までの時間(30~1440分)(M): 分

IOメモリーへの書き込みタイムアウト

タイムアウト時間(1~60秒)(S): 秒

5. [OK] をクリックします。

5.3 IC メモリーにデータを書き込む

🔔 注記

- 券面作成・エンコードソフトウェアで書き込みできる IC カードラベルは、フルアクセスキー A ですべてアクセスできるものだけです。すでに書き込まれた IC カードラベルや、アクセス制限設定がされた IC カードラベルには書き込みません。

書き込み待ちのレコードを確認する

1. 券面作成・エンコードソフトウェアを起動します。

🔗 参照

- 「起動する」(P.26)

2. 2つ表示されるウィンドウのうち、[エンコーダー] ウィンドウを選択します。

3. [未エンコード] タブを確認します。

IC カードラベルを印刷済み、かつ、まだ IC メモリーにデータが書き込まれていないレコードの一覧が表示されます。



NO.	名前	プリント日時	バーコードの読み取り日時
1	澄 未来	2021/01/29 11:34:14	
2	富士 みなと	2021/01/29 11:34:14	
3	横浜 仲夏	2021/01/29 11:34:14	
4	藤二 花子	2021/01/29 11:34:14	
5	藤 みどり	2021/01/29 11:34:14	
6	横濱 満	2021/01/29 11:34:14	
7	富士 未来	2021/01/29 11:34:14	

🔗 参照

- レコードを削除したい：「5.7 レコードを削除する」(P.62)
- レコードを再印刷したい：「5.6 IC カードラベルを再印刷する」(P.61)

IC メモリーに書き込む

1. [未エンコード] タブに表示されているレコードの、印刷した IC カードラベルを用意します。
2. 券面に印刷されているタグバーコードを、エンコード装置に近づけます。

エンコード装置がタグバーコードを読み取ると、[カードへのデータ書き込み] ダイアログボックスが表示され、待機時間のカウントダウンが始まります。

注記

- 複数の IC カードラベルを重ねたり近接させたりした状態で、書き込みをしないでください。この場合、書き込みが完了したとしても、書き込みデータは保証できません。

補足

- タグバーコードと IC メモリーの両方が、エンコード装置のスキャン面枠内に入るようにすると、タグバーコードの読み取りと IC メモリーの書き込みが一度にできます。
- 書き込みが終了するか、待機時間のカウントダウンが 0 秒になるまで、[カードへのデータの書き込み] ダイアログボックスを閉じることはできません。

3. [IC カード (チップ) 部分を読み取り機にかざしてください] というメッセージが表示されたら、IC カードラベルの IC メモリーの部分をエンコード装置にかざします。

正常に IC メモリーの書き込みが完了すると、「書き込みが終了しました」というメッセージが表示され、書き込み情報がログフォルダーに記録されます。

参照

- エラーメッセージが表示された場合：[5.8 エラーを確認する] (P.63)

書き込みをログファイルで確認する

書き込みが完了すると、ログフォルダーに書き込み情報や UID 情報が記録されます。

1. [ログフォルダー] をクリックします。



ログフォルダーが開きます。

2. 確認したい日時のフォルダーを選択し、任意の別のフォルダーにコピーします。

注記

- ログファイルは、Microsoft Excel などでは開いていると、ファイルがロックされた状態となり、書き込みが禁止されます。そのため、ログファイルを開いたままエンコードをすると、ファイル書き込みエラーとなりエンコード処理に支障が出ます。参照する場合は、ログファイルをコピーしてから、コピー先のファイルを参照してください。

3. コピーしたログファイルを開き、書き込み内容を確認します。

補足

- ログファイルは CSV 形式です。Microsoft Excel やテキストエディターなどでファイルを開いてください。

5.4 ログファイルをバックアップする

1. [バックアップ] をクリックします。



2. [フォルダーの参照] ダイアログボックスで、次の操作をします。

- 1) バックアップ先のフォルダーを指定します。

新規のフォルダーにバックアップする場合は、[新しいフォルダーの作成] をクリックしてフォルダーを作成してください。

- 2) [OK] をクリックします。

3. 「バックアップが完了しました。」というメッセージを確認し、[OK] をクリックします。

指定したフォルダーに、ログファイルのバックアップが作成されます。

5.5 ログファイルを削除する

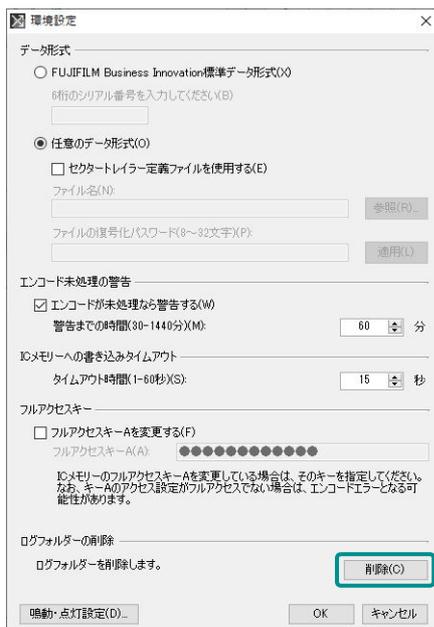
注記

- ログファイルを削除すると、書き込み記録やUIDの情報が削除されます。記録やUIDの情報を残したい場合は、先に「5.4 ログファイルをバックアップする」(P.59)を参照して、バックアップをとってください。

1. [環境設定] をクリックします。



2. [ログフォルダーの削除] の [削除] をクリックします。



3. 「エンコード済フォルダーを削除しますか？」というメッセージを確認し、「OK」をクリックします。 ログフォルダーが削除されます。

5.6 IC カードラベルを再印刷する

1. 「3.7 複合機に用紙をセットする」(P.42) の手順で、複合機に用紙をセットします。
2. [未エンコード] タブまたは [エラー] タブで、次の操作をします。
 - 1) IC カードラベルに再印刷したいレコードを選択します。
 - 2) [再印刷] をクリックします。



3. [再プリント先のプリンターを選択してください] ダイアログボックスで次の操作をします。
 - 1) [プリンター] で、印刷するプリンターを選択します。
 - 2) [OK] をクリックします。IC カードラベルに、選択したレコードが印刷されます。

5.7 レコードを削除する

1. 削除したいレコードを選択します。
2. [削除] をクリックします。
3. 「選択しているレコードを削除しますか？」というメッセージを確認し、[はい] をクリックします。
レコードが削除されます。

5.8 エラーを確認する

IC カードの IC メモリーに書き込むとき、エラーメッセージが表示されることがあります。
エラーメッセージが表示された場合は、次の操作をします。

1. [閉じる] をクリックします。

2. [エラー] タブを選択します。

エラーになっているレコードや、エラー理由が表示されます。

エラー理由は、次のとおりです。

エラー理由	考えられる原因
[JobID [*****] のジョブが存在しません] (*** は JobID 番号です。)	すでに書き込みが完了しているレコードか、すでに削除されたレコードを読み込んでいる。
[カード検出失敗]	<ul style="list-style-type: none">• タグバーコードが読み取られ、IC カードラベルの検出タイムアウト時間内に IC カードラベルを検出できなかった。• IC カードラベルの IC メモリーが故障 (破損) しており、IC メモリーを検出できない。
[キー A が異なるか、アクセス制限されているか、IC は壊れています。]	<ul style="list-style-type: none">• IC カードラベルを検出したが、認証中に IC カードラベルがエンコード装置から離れて、検出できなくなった。• 認証用のフルアクセスキー A が間違っている。• IC カードラベルはすでに書き込まれていて、アクセス制限されている。• IC カードラベルの IC メモリーが部分的に壊れている。
[カードの IC メモリー書き込み失敗]	<ul style="list-style-type: none">• IC カードラベルの IC メモリーヘータを書き込み中に、IC カードラベルがエンコード装置から離れて検出できなくなった。• IC カードラベルの IC メモリーが部分的に壊れている。
[セクタトレイラー書き込み失敗]	<ul style="list-style-type: none">• IC カードラベルの IC メモリーの、セクタトレイラーを書き込み中に、IC カードラベルがエンコード装置から離れて検出できなくなった。• IC カードラベルの IC メモリーが部分的に壊れている。
[ベリファイエラー]	<ul style="list-style-type: none">• IC カードラベルの IC メモリーに書き込み中、ベリファイに失敗した。• IC カードラベルの IC メモリーに、正常なデータが書き込まれていない。

[エラー] タブに移動したレコードを再度書き込みたい場合は、エラーになっているレコードの IC カードラベルを用意し、「IC メモリーに書き込む」(P.58) の手順 2～3 を再度実行します。

補足

- エラーが発生しているレコードは、[破棄] または [再印刷] をしない限り、エラーのままです。再印刷をして IC メモリーへの書き込みを実施するか、[破棄] を実施してください。
- エラーのあと、何度でも再書き込みができます。
- IC カードラベルのかざし方が悪い場合は、タグバーコードの読み取り後、IC カードラベルの IC メモリーがスキャン面の中心になるように近づけてください。正常に書き込みが完了する場合があります。
- 何度も再書き込みしてもエラーとなる IC カードラベルは、すでに書き込み済み (アクセス制限がかかっている) か IC メモリーが壊れている可能性があります。[再印刷] をクリックして、新しい IC カードラベルに印刷してから書き込んでください。

参照

- レコードを削除したい：[5.7 レコードを削除する] (P.62)
- レコードを再印刷したい：[5.6 IC カードラベルを再印刷する] (P.61)

5.9 環境設定をする

1. [環境設定] をクリックします。
2. [環境設定] ダイアログボックスで、次の設定をします。

項目	説明
FUJIFILM Business Innovation 標準データ形式	弊社の標準データ形式でエンコードする場合に選択します。
(シリアル番号)	インストール CD-ROM に記載されている 6 桁のシリアル番号を入力します。
任意のデータ形式	弊社の標準データ形式以外の形式でエンコードする場合に選択します。
セクタートレイラー定義ファイルを使用する	セクタートレイラー定義ファイルを使用する場合は、チェックマークを付けます。
ファイル名	[参照] をクリックして、事前に作成したセクタートレイラー定義ファイルを選択します。 6d 参照 • 「4.3 セクタートレイラー定義ファイルを作成する」 (P.49)
ファイル復号化パスワード	定義ファイルを作成するときに設定したパスワードを入力し、[適用] をクリックします。
エンコードが未処理なら警告する	印刷完了後に未処理のエンコードがある場合に、警告を出すときはチェックマークを付けます。また、警告を出す時間を分単位で設定します。
ICメモリーへの書き込みタイムアウト	IC カードラベルのタグバーコードを読み取ったあとに、書き込む IC メモリーをかざすまでの制限時間を、秒単位で設定します。

項目	説明
フルアクセスキー A を変更する	エンコードソフトウェアが IC メモリを初期化するとき使用するアクセスキー（キー A）を変更する場合は、チェックマークを付けます。
フルアクセスキー A	変更後のフルアクセスキー A を入力します。バイナリーの値を 16 進数で表現し、区切り文字なしで設定します。6 バイトまで設定できます。 例：010203040506 <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>補足</p> <ul style="list-style-type: none"> データを書き込まない場合、フルアクセスキー A は使用しません。 すでに、セクタトレイラーの設定やキーがデフォルト設定以外に変更された IC カードラベルは、使用できません。 </div>
ログフォルダーの削除	[削除] をクリックすると、ログフォルダーが削除されます。

3. エンコード装置の音や光の設定をする場合は、次の操作をします。

1) [鳴動・点灯設定] をクリックし、次の設定をします。

正常時（読み取り時や書き込み時）の動作と、異常時（エラー発生時）の動作を設定できます。



項目	説明
鳴動時間	鳴らす音の長さを選びます。
音量	鳴らす音の音量を選びます。
音色	鳴らす音の高さを選択します。
LED 点灯	LED の色と点灯パターンの組み合わせを選択します。

補足

- [動作確認] をクリックすると、エンコード装置で実際の動作を確認できます。

2) [OK] をクリックします。

4. [OK] をクリックします。

6 こんなときには

OpenType フォントが選択できない

Windows で正式にサポートされている True Type フォントを使用してください。

本ソフトウェアで使用している Windows の描画ロジック GDI + で、正式にサポートしているフォントは True Type フォントだけです。OS のバージョンによって、描画ロジックのバージョンが異なり、Open Type フォントの対応状況が異なっているため、一部のフォントが表示されず、利用できないことがあります。

印刷画面でプリンターが表示されない

- 券面作成ソフトウェアが動作している環境に、弊社製プリンタードライバーがインストールされていますか？
弊社製プリンタードライバーがインストールされているか確認してください。
- 対応していない機種ではありませんか？
販売店に対象機種を確認してください。
- IC カードラベル用のプリンター設定になっていますか？
プリンターの設定は、「2.3 プリンターを登録する」(P.13) を確認してください。
- プリンタードライバーは最新のバージョンですか？
最新のドライバーは、弊社の公式 HP を参照してください。
<https://www.fujifilm.com/fb/>

券面レイアウトの印刷の品質に問題がある

- 印刷するプリンターを変更してください。
本ソフトウェアで、該当レコードを別のプリンターで再印刷してください。
- 印刷するプリンタードライバーのグラフィックスの設定を変更してください。
券面作成ソフトウェアでは、印刷するプリンタードライバーのグラフィックスの設定は変更しないで、該当プリンターアイコンのグラフィックス設定のまま印刷します。
- 券面アイテムがプリンターの物理的な描画領域外に配置されていませんか？
該当プリンターアイコンに設定されている余白を確認し、プレビューエリアで券面アイテムの配置を調整してください。
- 印刷された券面情報がずれていませんか？
券面情報がずれている場合、プリンターの IC カードラベルの給紙位置を確認してください。
プリントの位置調整をしたために券面情報がずれた場合は、設定を元に戻してください。
- プリンターの IC カードラベル用の設定が正しいか、ドライバー設定を確認してください。

1 枚の用紙に複数の券面レイアウトを印刷したが、片方の印刷品質に問題がある

- 印刷品質に問題があったレコードを再印刷してください。
本ソフトウェアで、該当レコードを再印刷してください。[エンコーダー] 画面の [再印刷] を使用した場合、用紙サイズの変更はできません。2 連用紙の場合、1 レコードのときは、2 連用紙の片面に印刷されます。

エンコード装置にアクセスできない

コンピューターの省電力機能によって、USB に電源が供給されない場合があります。その場合は、コンピューターの USB の省電力機能を無効に設定することで、回避できます。

1. < Windows >キーを押しながら< X >キーを押します。
2. 表示された一覧から [電源オプション] をクリックします。
3. 現在使用している電源プランの [プラン設定の変更] をクリックします。
4. [詳細な電源設定の変更] をクリックします。
5. [USB 設定] > [USB のセレクトティブ サスペンドの設定] をクリックします。
[バッテリー駆動] と [電源に接続] を [無効] に設定します。
6. [OK] をクリックします。

エンコード装置が反応しない

- コンピューターに USB ケーブルを 2 本接続していますか？
エンコード装置の接続方法を確認してください。
- ドライバーをインストールしたポート以外に接続していませんか？
エンコード装置をセットアップした USB ポートに接続してください。
- デバイスマネージャーで Active USB-COM ポートが Connect になっていますか？
確認方法は、「エンコード装置の設置を確認する」(P.11) を参照してください。
- Active USB-COM ポートドライバーはインストールされていますか？
- Active USB-COM ポートドライバーを 2 つインストールしていますか？
Active USB-COM ポートドライバーは必ず 2 つインストールしてください。3 つ以上インストールした場合も、エンコード装置が反応しません。
- 暗い場所に設置されていませんか？
エンコード装置は、バーコードの読み取り用照明を付けるために、読み取り画像で動きを検出しています。部屋が暗い場合、バーコードの読み取り用照明を点灯させるトリガーが検出できません。明るい部屋や照明のある場所でお使いください。
- IC カードラベルや IC メモリーをかざしても無反応の場合は、別の IC カードラベルで試してください。どの IC カードラベルも無反応で、音も鳴らない、LED も光らない場合は、エンコード装置が壊れている可能性があります。

タグバーコードを読み取れない

- タグバーコードの印刷が、かすれていたり、タグバーコードがつぶれていたりしませんか？
タグバーコードが鮮明に印刷できているか、指定したバーコードフォントがインストールされているか確認してください。
バーコードフォントのインストールは「2.2 バーコードフォントをインストールする」(P.12) を参照してください。
- エンコード装置のスキャン面から、タグバーコードがずれていませんか？
エンコード装置のスキャン面内にタグバーコードが収まるように、スキャン面の中心にタグバーコードをかざしてください。
- エンコード装置は、スキャン面にカードをかざしたときに明るさが変化することで、バーコード読み取りを開始します。暗い環境に置かれていると、明るさの変化を検知できず、バーコードを読み取れないことがあります。
タグバーコード全体がスキャン面に入るように、タグバーコードをかざしてください。
- エンコード装置が NW-7 バーコードを読み取れる設定になっていますか？
エンコード装置の設定は、「エンコード装置で QR コードを読み取る」(P.11) を参照してください。
- 環境設定画面やバージョン情報画面、その他メッセージダイアログボックスなどのウィンドウが表示されていませんか？
該当のウィンドウを閉じたあとにタグバーコード読み取りを実施してください。
- HitachiIT NW7 H4 フォントがインストールされていますか？
HitachiIT NW7 H4 フォントのインストールは、「2.2 バーコードフォントをインストールする」(P.12) を参照してください。

IC カードラベルをかざしても書き込みエラーになる

- MIFARE Classic 1K/MIFARE Classic EV1 1Kカード以外のIC カードラベルやIC メモリーをかざしていませんか？
IC メモリーの種類を確認してください。
- IC メモリーが壊れていませんか？
別のIC カードラベルで書き込みができる場合、IC メモリーが壊れている可能性があります。新しいIC カードラベルに再印刷してください。
- バーコードリーダ / IC カードリーダライタから、IC メモリーがずれていませんか？
バーコードリーダ / IC カードリーダライタのスキャン面の中心にIC メモリーを接触させるようにかざしてください。
- すでに書き込み済みのIC カードラベルをかざしていませんか？
- 書き込み済みであるかどうかを確認してください。ユーザー情報ファイルにIC メモリーへの書き込みデータが正しく定義されていますか？
ユーザー情報ファイルの「DATA」カラムを確認してください。
- ノイズの影響は受けていませんか？
近くにノイズ源がある場合はノイズ対策を行ってください。
- NFC 搭載のスマートフォンやタブレットなど、他のIC カードリーダライタがそばにありませんか？
近くに 13.56 MHz の周波数を使う機器があると、影響を受ける場合があります。エンコード装置を機器から遠ざけてください。

IC カードラベルに書き込んでもデータが書かれていない

- 近くにIC カードやIC ラベルを置いていませんか？
近くにIC カードやIC ラベルを置くと、違うIC メモリーへ書き込んでしまう可能性があります。書き込みに使用しないIC カードやIC ラベルは、エンコード装置から遠ざけてください。
- 2 連用紙をシングル用紙サイズに切り取らず、そのまま書き込みをしていませんか？
2 連用紙のまま書き込みをすると、違うIC メモリーへ書き込んでしまう可能性があります。2 連用紙はシングル用紙サイズに切り取ってから書き込んでください。

1 枚の用紙に複数のレイアウトを印刷したが、片方のエンコードに失敗した

- エンコードに失敗したレコードを再印刷してください。
本ソフトウェアで、該当レコードを再印刷してください。[エンコーダー] 画面の [再印刷] を使用した場合、用紙サイズの変更はできません。2 連用紙の場合、1 レコードのときは、2 連用紙の片面に印刷されます。

ご意見、ご相談などは、お客様相談センターにご連絡ください。

電話　　： 0120-27-4100

ファクス： 0120-05-5035

受付時間：9時から12時、13時から17時（土・日・祝日および弊社指定休業日をのぞく）
フリーダイヤルは、海外からはご利用いただけません。また、一部のIP電話からはつながらない場合があります。
お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。